

第5回独身者（40～60代前半）の老後生活設計ニーズに関する調査：過去調査との比較

平河 茉璃絵

公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構 研究員

【記事情報】

掲載誌：年金研究 No.15 pp. 166-195

ISSN 2189-969X

オンライン掲載日：2021年3月19日

掲載ホームページ：<https://www.nensoken.or.jp/publication/nenkinkenkyu/>

DOI：http://doi.org/10.20739/nenkinkenkyu.15.0_166

要旨

今回で「独身者の老後生活設計ニーズに関する調査」は5回目となる。本論文では、女性については第2回調査から第5回調査の結果、男性については第4回調査と第5回調査の調査結果を比較検討した。

仕事については、男女共に「正社員」として働く割合が増加した。女性については、「正社員」の割合は第3回調査から増加傾向にある。勤続年数は、男女共に5年以上を境に長い期間働く人の割合が増加した。60歳以降も働きたいという意向は第4回調査で一時的に低下したものの、今回調査では上昇した。

家族・家計については、第4回調査と比べ、50代以降において一人暮らし世帯の割合が高まった。同居人がいる場合、親との同居割合は第4回調査からほぼ横ばいで推移している。世帯全体の年間収入は男女共に200万円を境に、それより低い世帯の割合は増加し、高い世帯の割合は減少した。世帯の生活費（月額）も収入と同様に下方へシフトしている。

住まいについては、現在の住まいを「自分の持ち家」と回答する割合が男女とも第4回調査に引き続き低下した。男性は「親の持ち家」が第4回調査より4.3ポイント増加した一方で、女性は「親の持ち家」に住む人が微減した。また、女性では第2回調査から増加傾向にある「賃貸住宅（民間・公団・公社）」に住む人が、第5回調査においても増加した。老後に誰と住むか、に関しては、第4回調査と比べて男女共に「1人で暮らす」の割合が減少し、「わからない」の割合が大幅に増加した。

今の生活について、現在の生活の満足度は、「収入」や「資産・貯蓄」は「不満」と回答した人の割合が「満足」の割合を引き続き上回っているが、その差は縮小傾向にある。介護経験がある人は増加傾向にあり、介護対象者は親が最も多い。

老後の生活については、いずれの年齢層においても、65歳以降の生活設計を「考えていない」という人の割合が増加した。老後の有力な収入項目として、「公的年金」を挙げた

人は過去調査と比較して大幅に減少した。自分の介護が必要になった時の対処法として、「自宅で在宅介護を利用」の回答割合が上昇した。男性では自分の介護が必要になったときの対処法として「公的介護施設を利用」と回答した割合が低下した一方、女性では「公的介護施設に入所」の回答割合が上昇した。

1. 過去調査の概要

今回で5回目となる「独身者の老後生活設計ニーズに関する調査」だが、第1回から第3回までは調査対象を40歳～59歳の女性に限定したものであった。また、第4回調査では、調査対象が40歳～59歳の未婚男女に拡大された。そこで、本論文では今回の調査結果から40～50代の男女を抽出し、過去の調査結果と比較した。なお、質問内容が第1回調査と第2回調査以降とでは大きく異なるため、第2回調査以降の過去調査と比較した。女性については第2回調査から第5回調査の結果、男性については第4回調査と第5回調査の結果を比較検討する。

過去調査の調査概要は以下のとおり。

① 第2回調査

実施時期：2005年12月～2006年1月

調査対象地域：全国

調査方法：郵送調査

総発送数：1250人

調査対象者（回答者）：40～59歳の未婚女性¹（1008人）

有効回答率：80.6%

② 第3回調査

実施時期：2010年9月27日～2006年10月5日

調査対象地域：全国

調査方法：インターネット調査

調査委託先：株式会社マクロミル

調査対象者（回答者）：40～59歳の女性（未婚1016人、有配偶313人）

③ 第4回調査

実施時期：2015年12月10日～14日

調査対象地域：全国

調査方法：インターネット調査

調査委託先：株式会社インテージ

調査対象者（回答者）：40～59歳の未婚男女（男性1136人、女性1139人）

④ 第5回調査（今回調査）

調査実施時期：2020年6月22日～6月23日

¹ 生涯未婚女性（これまでに結婚経験がない女性。離別・死別を除く未婚女性を指す。以下同様）。

調査対象地域：全国

調査方法：インターネット調査

調査委託先：株式会社クロス・マーケティング

調査対象者（回答者）：40～64歳の未婚男女（男性：1250人、女性：1250人）

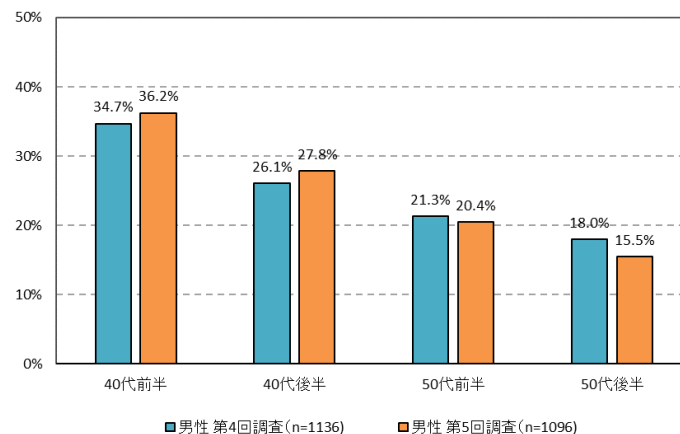
今回調査の回答者のうち40～59歳の回答者は、男性が1096人、女性が1124人である。

2. 対象者の基本的属性

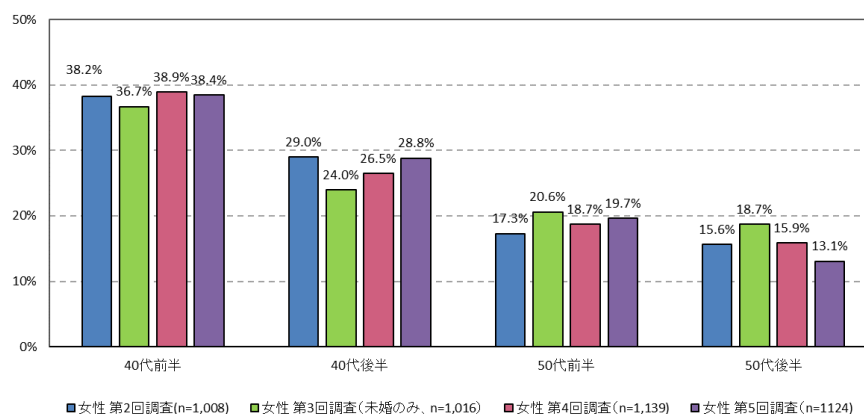
2.1 年齢分布

第5回調査では、年齢構成を『平成27年国勢調査』と一致するように設定して、サンプルを確保した。男性サンプルは、前回調査と比べて40代の割合が上昇する一方で、50代の割合が低下している。女性サンプルは、第3回調査以降、40代後半の割合が上昇する一方、50代後半の割合が低下している。

図表1 男性の年齢分布



図表2 女性の年齢分布

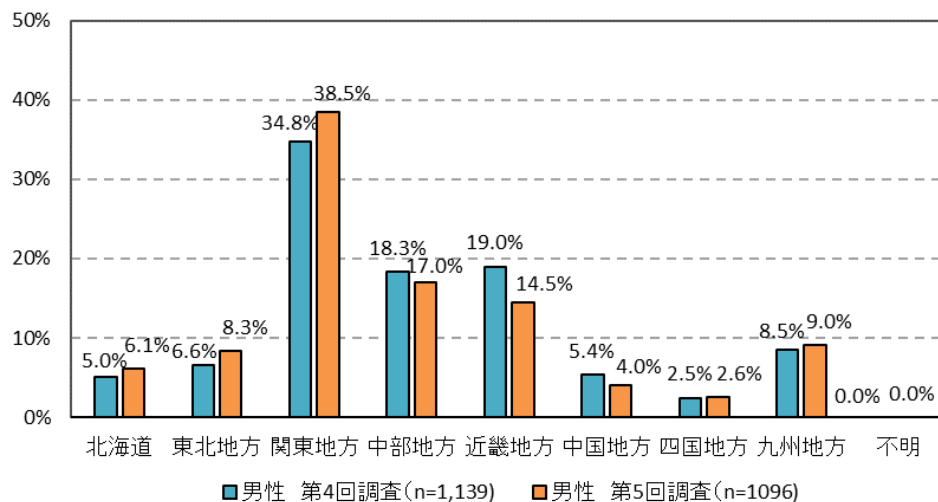


2.2 居住地分布

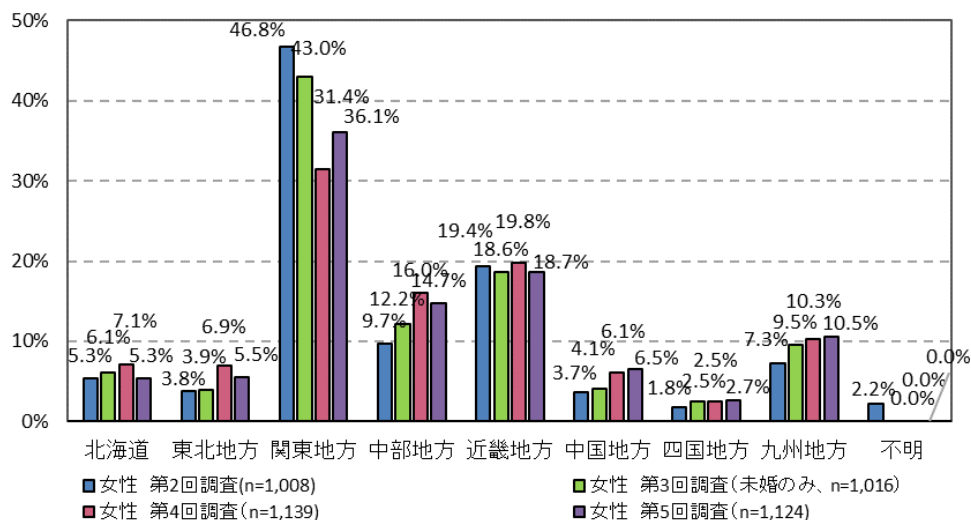
第5回調査では、居住地を東京圏・名古屋圏・大阪圏・その他（3大都市圏を除く）の4地域に区分し、それぞれのサンプル割合を『平成27年国勢調査』の分布割合に一致させた。第4回調査では『平成22年国勢調査』の分布割合に一致させた。第3回調査では国勢調査と割合を一致させることは行わなかった。

第4回調査の分布と比べると、男性サンプルでは関東地方のサンプルが3.7ポイント増加したのに対し、近畿地方のサンプルは4.5ポイント減少した。女性サンプルでは関東地方のサンプルが4.7ポイント増加した。

図表3 居住地分布（男性）



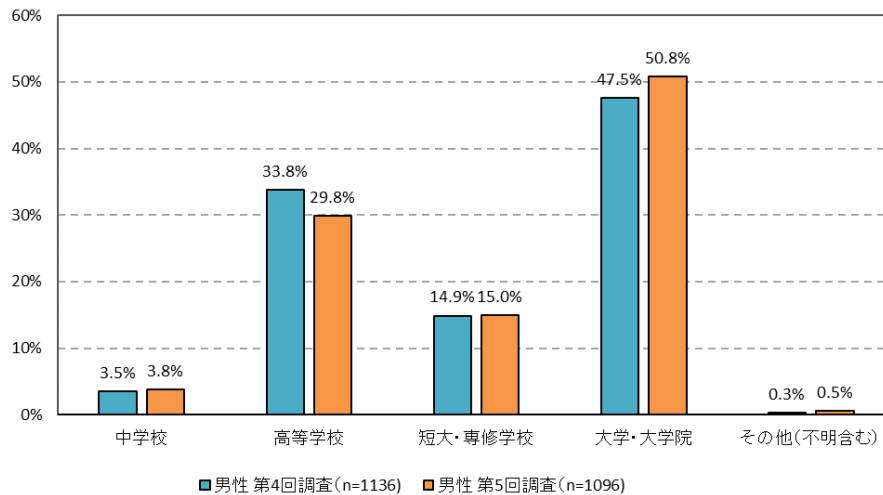
図表4 居住地分布（女性）



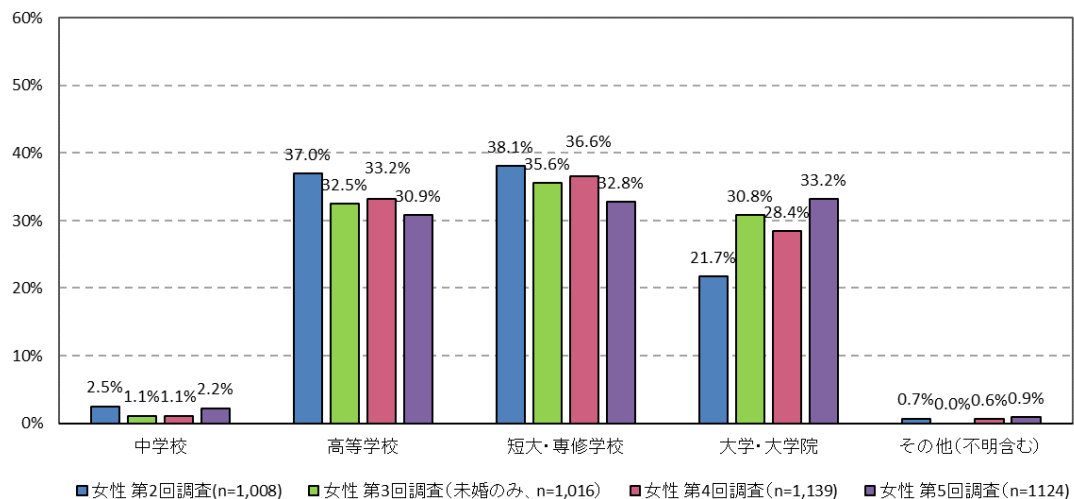
2.3 最終学歴

学歴の分布状況を比較すると、男性サンプルでは第4回調査と比べ、第5回調査では高等学校の割合が4.0ポイント減少した。その一方、大学・大学院の割合が3.3ポイント増加した。女性サンプルは、第2回調査から高等学校、短大・専修学校の割合が減少し続けている。大学・大学院の割合は第2回調査から増加傾向にあり、第5回調査では第4回調査から約5ポイント増加した。

図表5 学歴分布（男性）



図表6 学歴分布（女性）

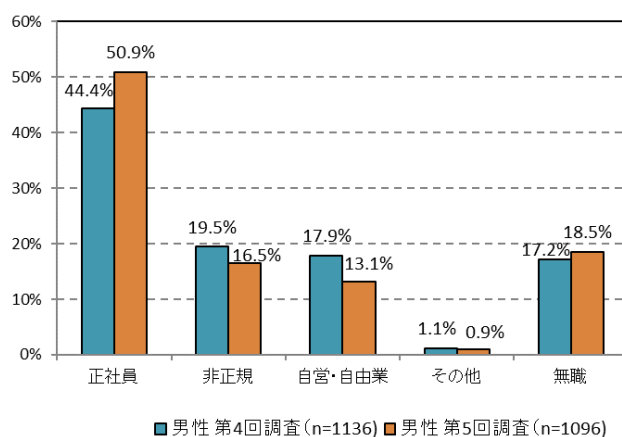


3. 仕事について

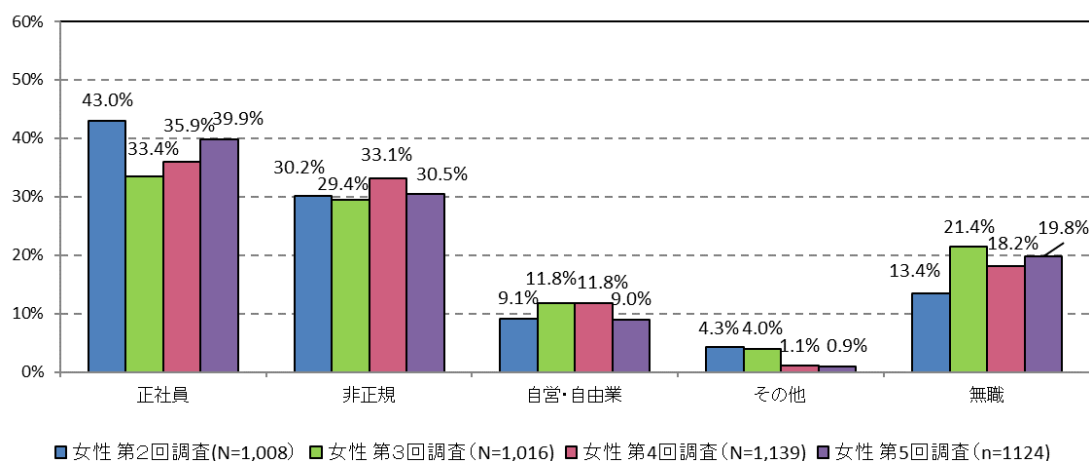
3.1 現在の就業状況

男性サンプルでは、第4回調査から「非正規²⁾」、「自営・自由業」の割合がそれぞれ3ポイント、4.8ポイント減少する一方、「正社員」の割合は6.5ポイント上昇した。女性サンプルでは、第3回調査から「正社員」の割合が増加し続けている。第4回調査と比べ、第5回調査では女性の正社員割合が4ポイント上昇した。「非正規」、「自由・自営業」、「無職」の割合はほぼ横ばいで推移している。

図表7 従業上の地位（男性）



図表8 従業上の地位（女性）

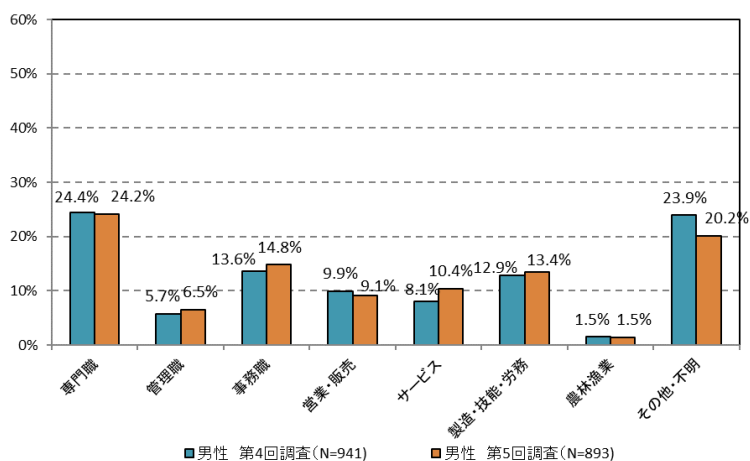


²⁾ 非正規は、パート、アルバイト、契約社員・嘱託、派遣社員の合計である。

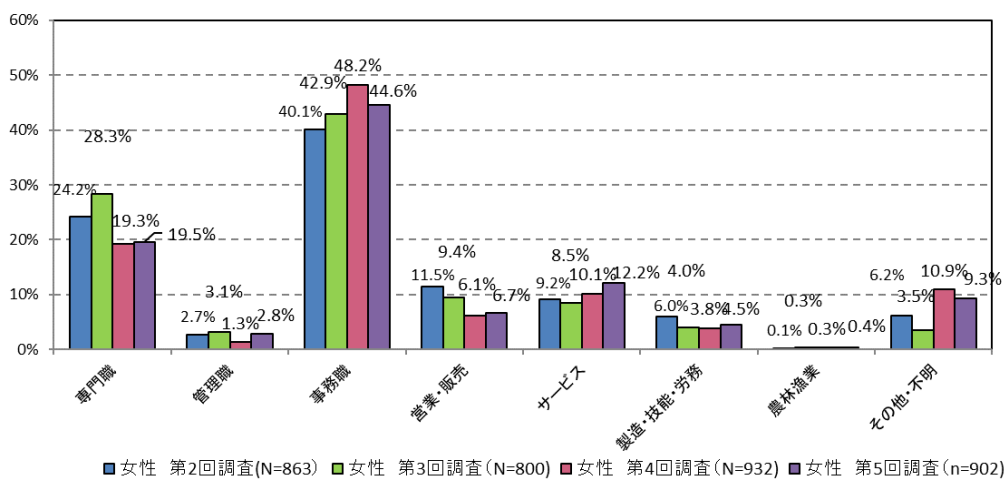
3.2 仕事の内容

男性サンプルでは、「その他・不明」を除き、第4回調査、第5回調査ともに「専門職」、「事務職」、「製造・技能・労務」の順に従業者の割合が高く、ほぼ横ばいで推移している。女性サンプルでは、第2回調査から第5回調査を通して「事務職」の占める割合が最も高く、4割以上を占める。第4回調査と比較すると、第5回調査では女性の事務職の占める割合が約4ポイント低下し、第2回調査、第3回調査の水準に近付いた。第3回調査から第4回調査にかけて構成比が大幅に低下した「専門職」について、第5回調査では19.5%を占めており、第4回調査からほぼ横ばいの推移である。

図表9 仕事の内容（男性）



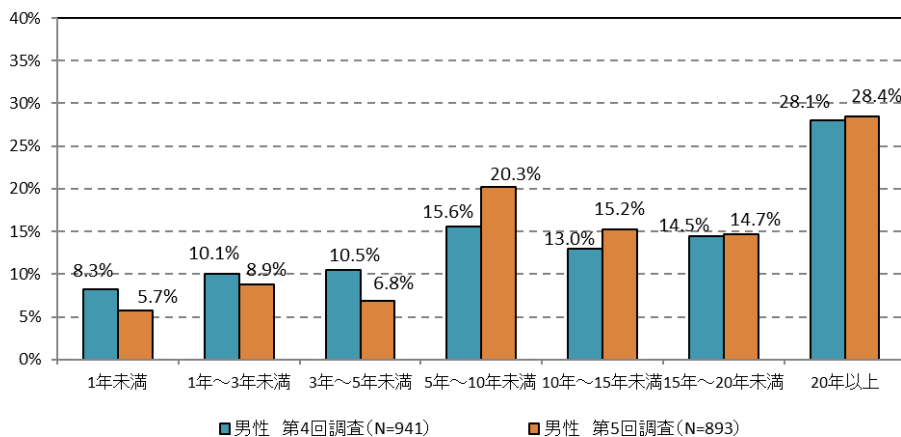
図表10 仕事の内容（女性）



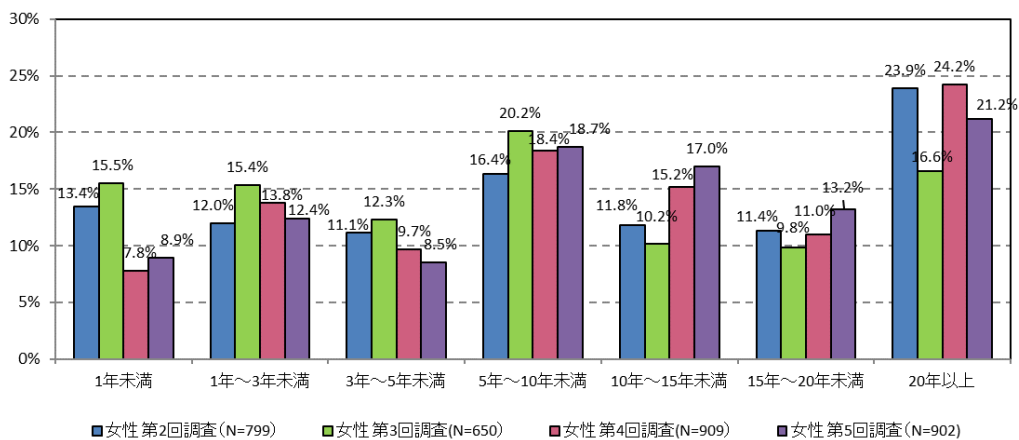
3.3 現在の仕事の継続期間

第4回調査と第5回調査を比較すると、男女共に現在の仕事の継続期間が「1年未満」、「1年～3年未満」、「5年未満」の割合が減少した一方、現在の仕事を5年以上続けているという回答割合が上昇した。女性サンプルにおいては、第3回調査から仕事の継続期間の長期化が続いている。

図表 11 現在の仕事の継続期間（男性）



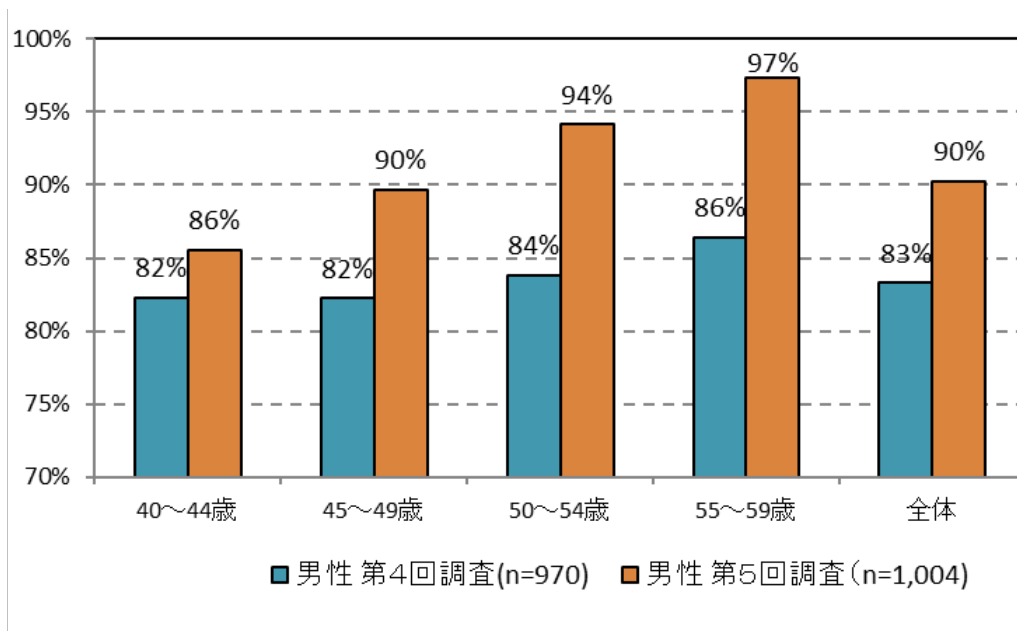
図表 12 現在の仕事の継続期間（女性）



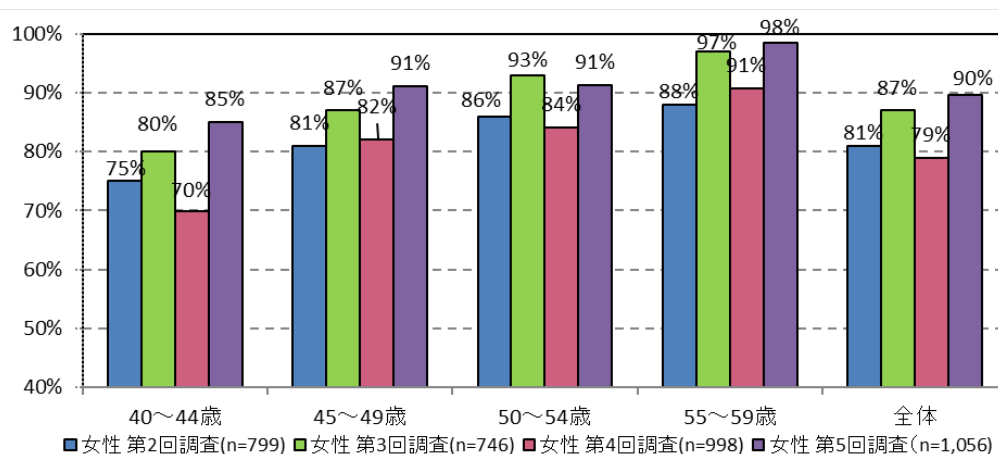
3.4 60歳以降の就業意向

図表 13、図表 14 では、60歳以降も働きたい人の割合の推移を示した。第4回調査と比較すると、男女共に60歳以降も働きたいと考える人の割合が大幅に上昇した。特に40～44歳の女性で上昇幅が大きい。第4回調査と比較して、40～44歳女性の中で60歳以降も働きたいと考える人の割合は約20ポイント上昇した。

図表 13 60歳以降も働きたい人の割合（男性）



図表 14 60歳以降も働きたい人の割合（女性）



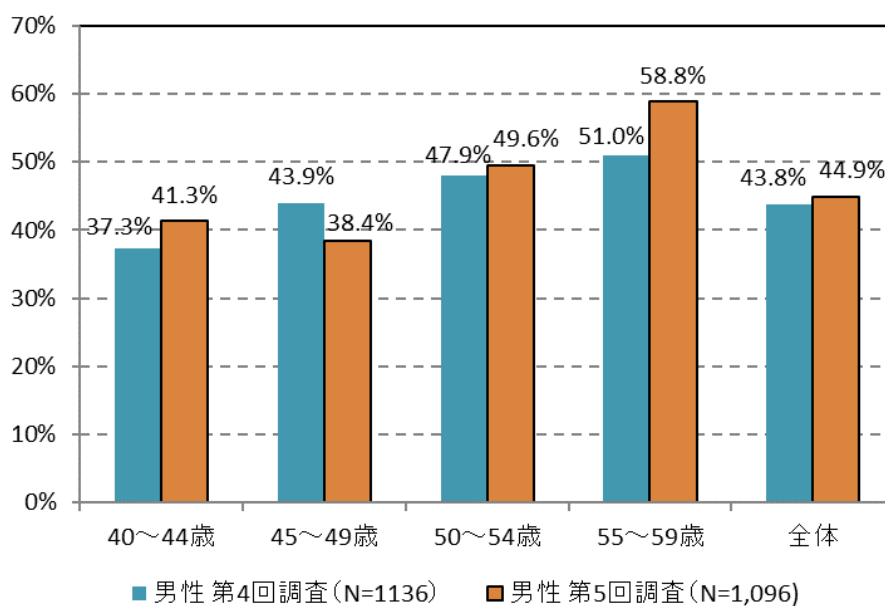
4. 家族・家計について

4.1 あなたの現在の住まい

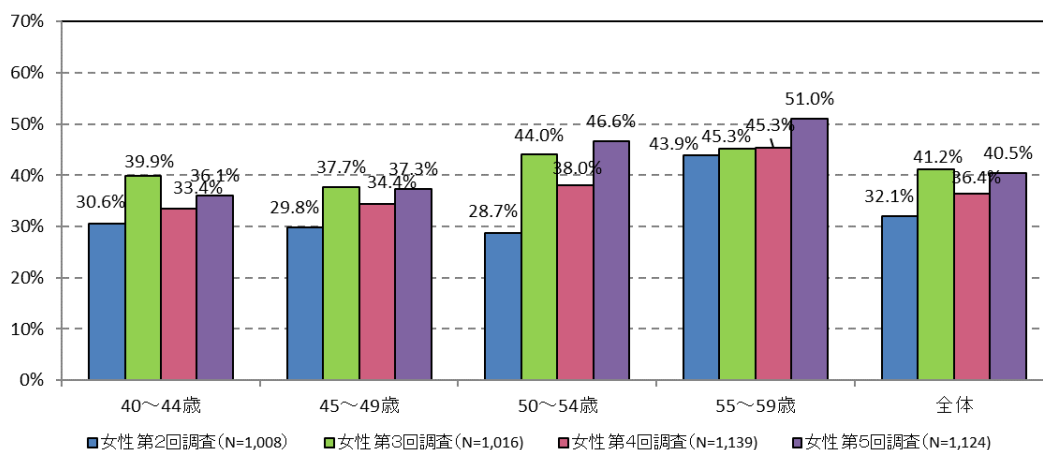
第4回調査と比較すると、男性サンプルでは45～49歳を除いて一人暮らし世帯の割合が上昇している。特に、55～59歳では8ポイント近く上昇した。

女性サンプルでは第3回調査から一人暮らし世帯の割合は上昇傾向が続いている。第5回調査では、特に55～59歳の上昇が大きく、第4回調査と比べて約6ポイントの上昇である。

図表 15 一人暮らし世帯の割合（男性）



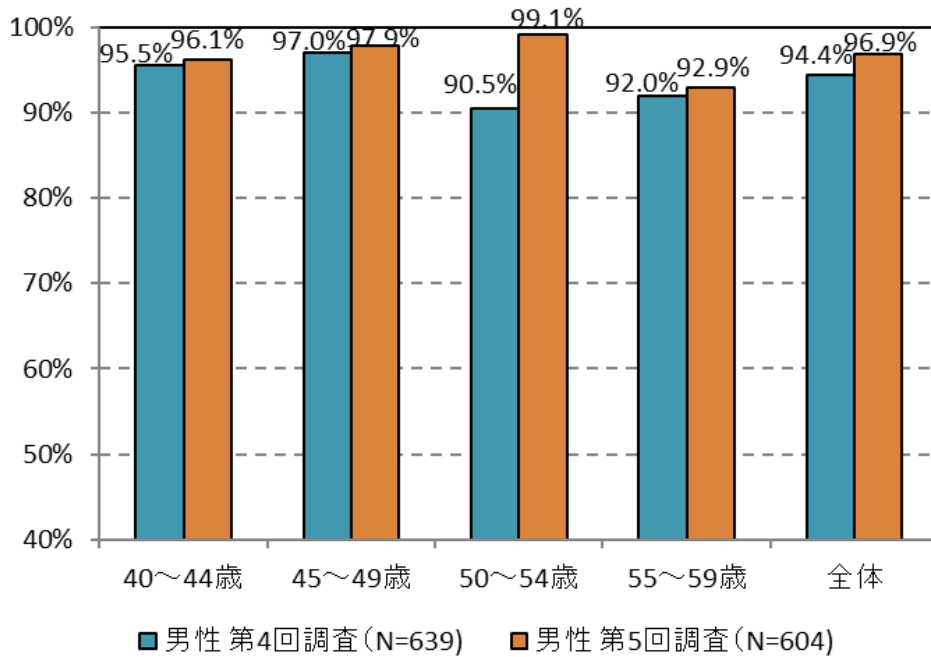
図表 16 一人暮らし世帯の割合（女性）



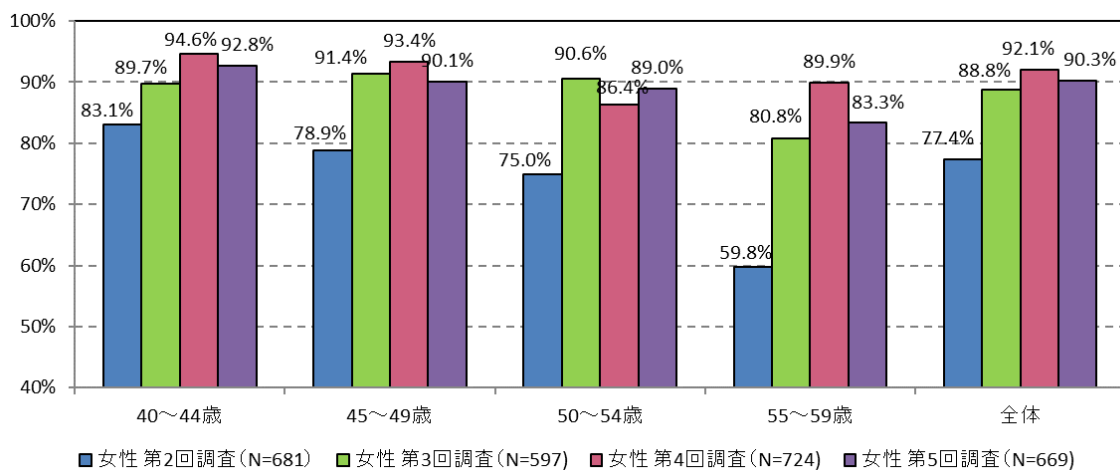
4.2 親との同居割合

同居人がいる場合、親との同居割合は第3回調査以降、性別や年齢別を問わず80%を超えている。第4回調査と比較すると、第5回調査における親との同居割合は全体と40代ではほぼ横ばいに推移しているが、男性の50～54歳では約10ポイント上昇、女性の55～59歳では6.6ポイント減少した。

図表 17 誰かと同居している回答者のうち、親との同居割合（男性）



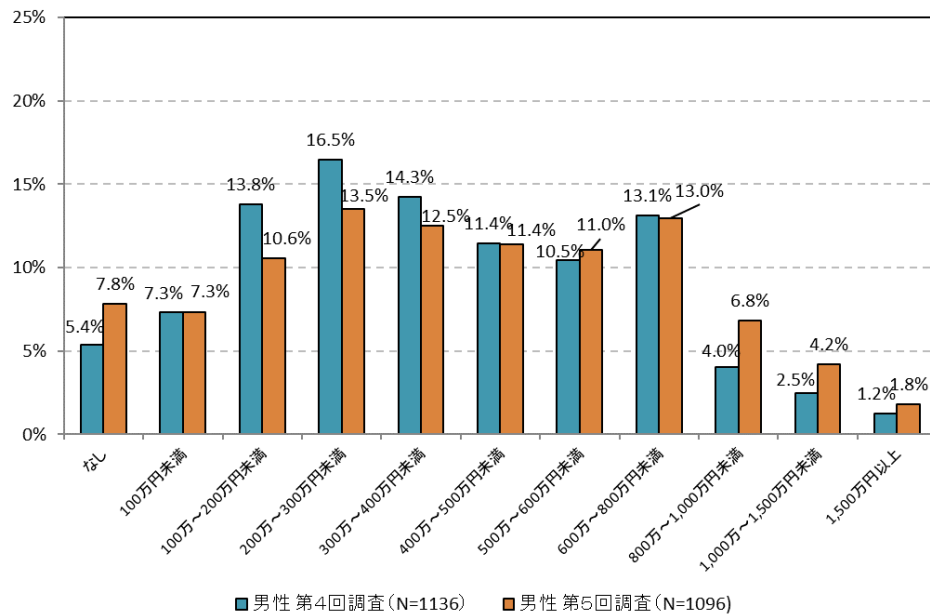
図表 18 誰かと同居している回答者のうち、親との同居割合（女性）



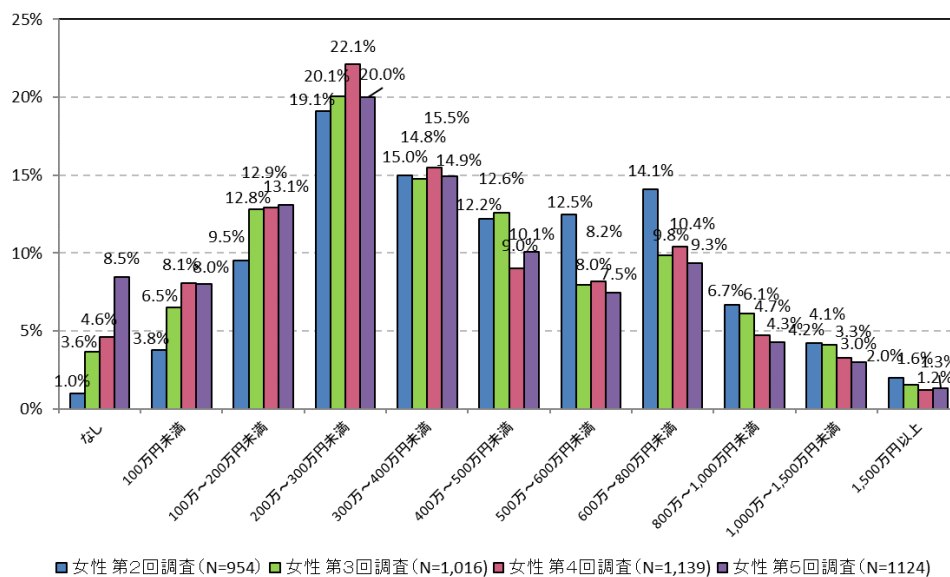
4.3 世帯収入

男性サンプルでは、第4回調査で回答の多かった「100万円～200万円未満」、「200万円～300万円未満」の割合が減少し、世帯所得が「なし」の割合が増加した。女性サンプルでは第2回調査から第5回調査を通して世帯収入が200万円未満の回答者が増加、世帯収入が500万円以上の回答者が減少し続けている。第4回調査と比較すると、女性サンプルにおいて世帯収入を「なし」と回答した割合が3.9ポイント上昇した。

図表 19 世帯全体の年間収入額（男性）



図表 20 世帯全体の年間収入額（女性）

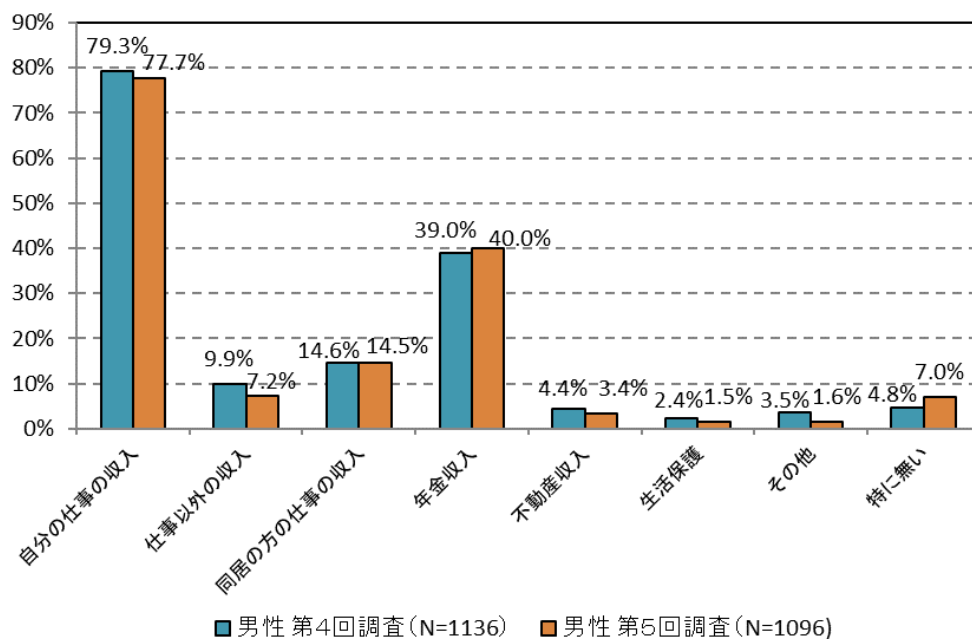


4.4 世帯の収入源

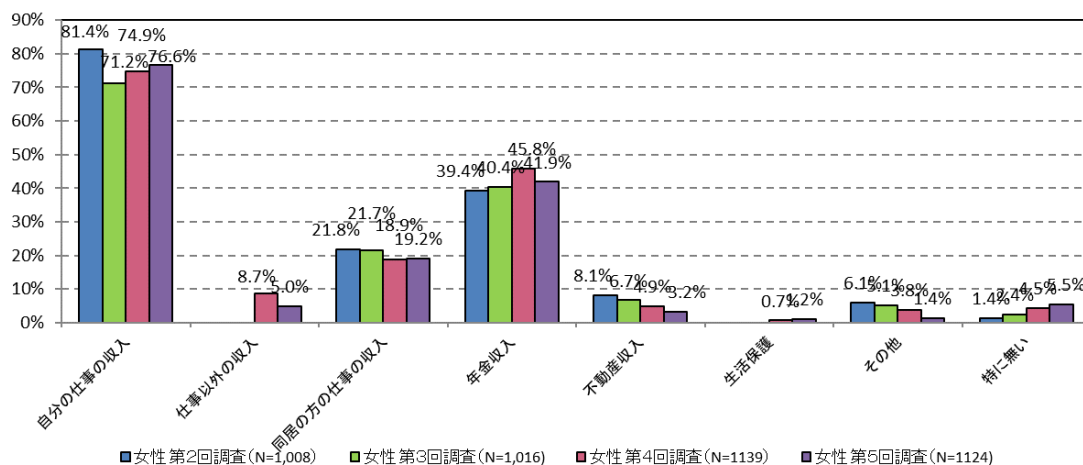
世帯の収入源は、第2回調査から第5回調査のいずれにおいても、「自分の仕事の収入」が最も多く、次いで「年金収入（親、祖父母、自分の年金を含む）」を世帯の収入源とする割合が高い。

男性サンプルでは「自分の仕事の収入」が微減し、「年金収入」が増しているが、第4回調査とその割合はほぼ変わらない。女性サンプルについては、第2回調査から「不動産収入」の回答割合が減少傾向、「特になし」の回答割合が増加傾向にある。

図表 21 世帯の収入源（男性）



図表 22 世帯の収入源（女性）



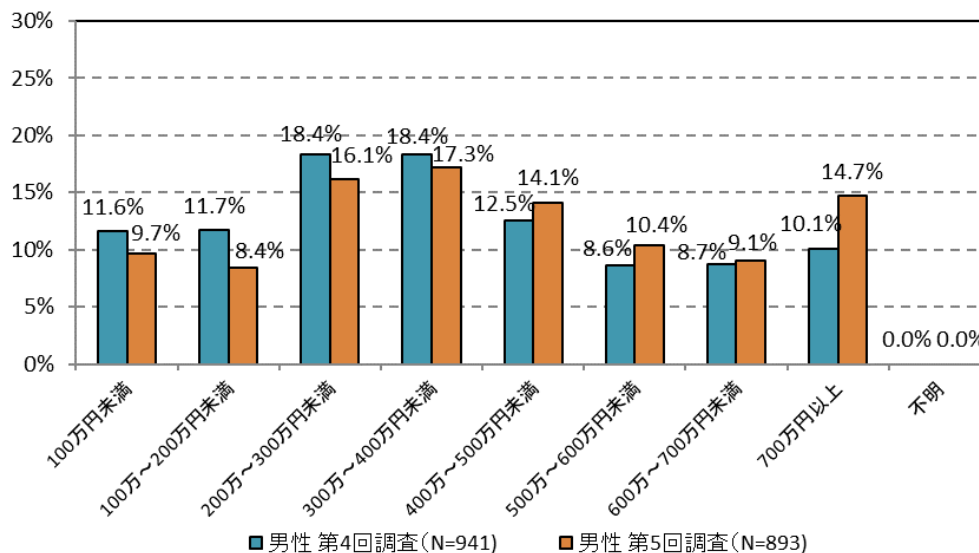
注)「仕事以外の収入」には、アフィリエイトやネットオークション等の収入が含まれる。「年金収入」には、親の年金収入、祖父母の年金収入、回答者自身の年金収入が含まれる。

4.5 本人の仕事の収入

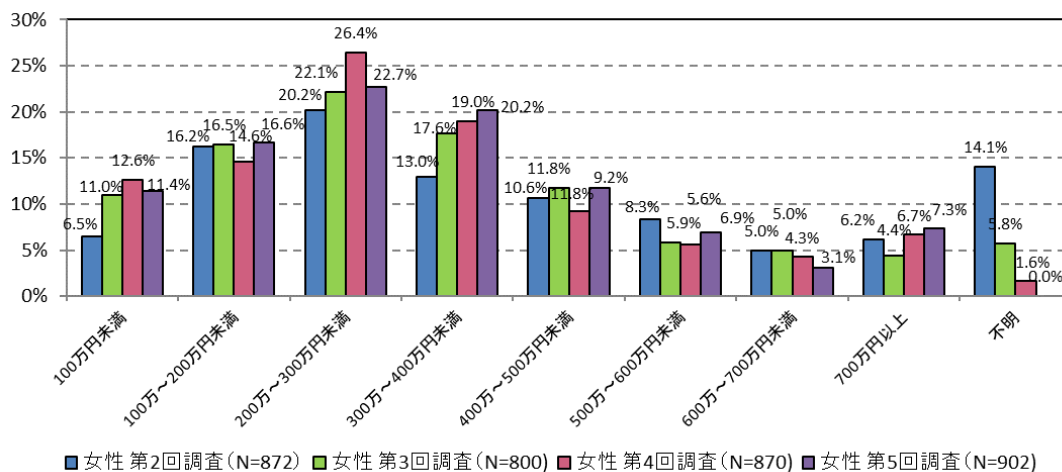
第4回調査と比較すると、男性サンプルでは仕事から得られる収入が400万円未満の回答割合が低下し、500万円以上の回答割合が上昇した。

女性サンプルでは、第2回調査から第5回調査を通して「300～400万円」の回答割合が上昇しつづけている。第4回調査では「200万～300万円未満」の回答割合が第3回調査から4ポイント超上昇したが、第5回調査ではほぼ第3回調査の水準に戻った。

図表 23 仕事から得られた収入（男性）



図表 24 仕事から得られた収入（女性）

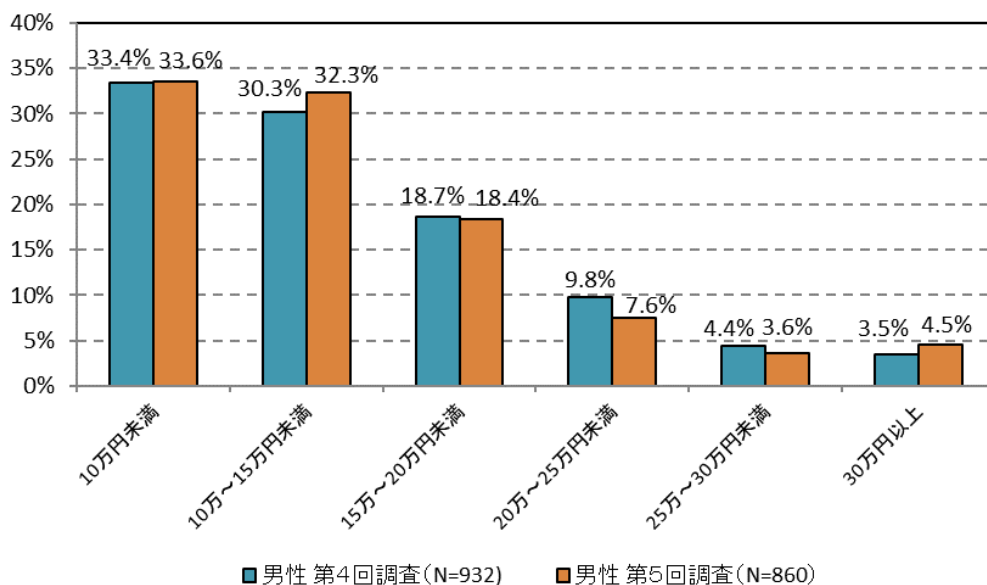


4.6 世帯の生活費（月額）

図表 25、図表 26 は、世帯の 1 か月あたりにかかる生活費が「わからない」という回答を除く、世帯の生活費月額分布である。男性サンプルでは、第 4 回調査から第 5 回調査にかけて、ほぼ横ばいの変化である。

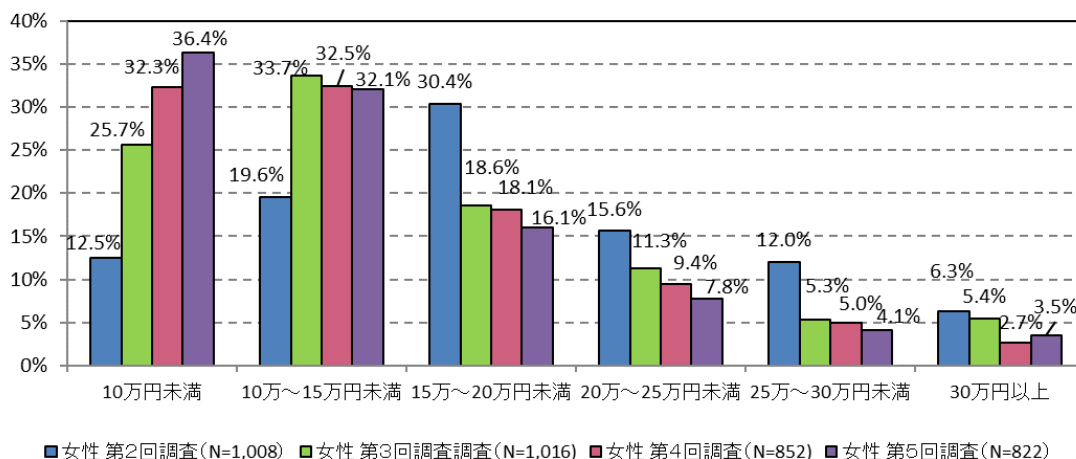
女性サンプルでは、第 2 回調査から世帯の生活費の減少傾向が続いている。世帯の生活費が 10 万円以上と回答した割合は「10 万～15 万円未満」を除くと、総じて第 2 回調査から一貫して減少する一方、「10 万円未満」の回答割合は第 2 回調査から第 5 回調査を通して上昇し続けている。

図表 25 世帯の生活費月額（男性）



注) 「わからない」を除いた集計結果。

図表 26 世帯の生活費月額（女性）

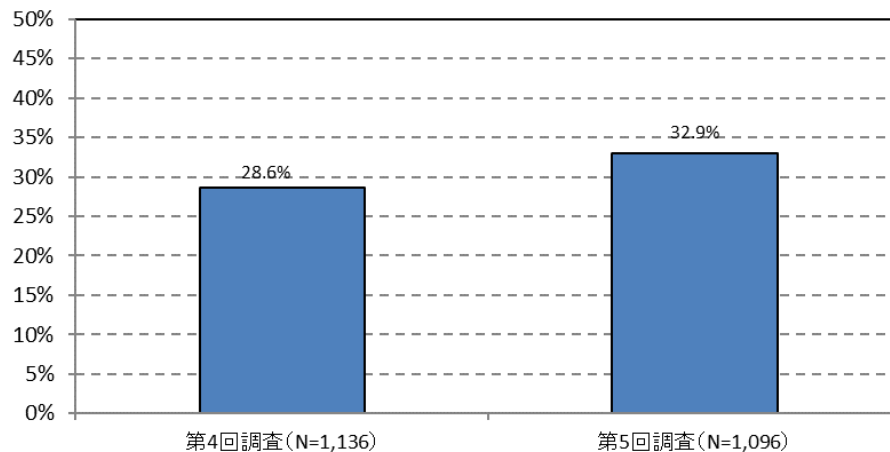


注) 「わからない」を除いた集計結果。

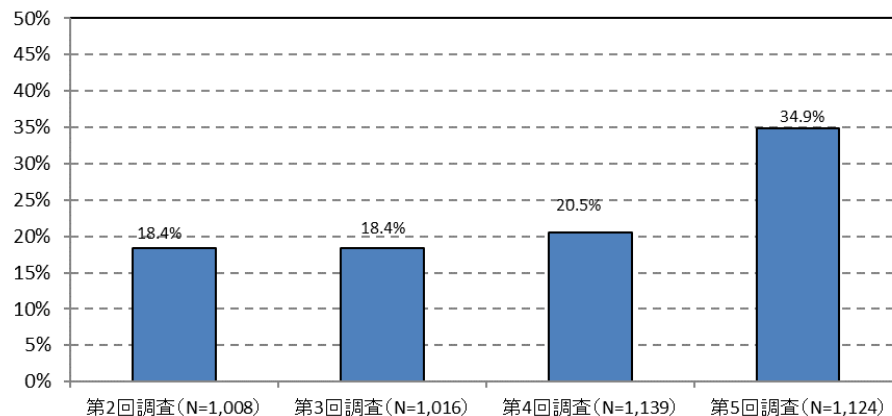
4.7 現在、資産形成をしていない割合

第4回調査と比較して、資産形成のために金融商品を何も利用していない割合は、男女共に上昇した。特に、女性の上昇幅が大きい。第2回調査から第4回調査を通して、資産形成を何もしていないと回答した女性回答者の割合は20%前後であったが、第5回調査では34.9%まで上昇した。ただし、第5回調査では設問文を修正したため、集計結果の比較には注意を要する³。

図表 27 現在、資産形成を何もしていない回答者の割合（男性）



図表 28 現在、資産形成を何もしていない回答者の割合（女性）



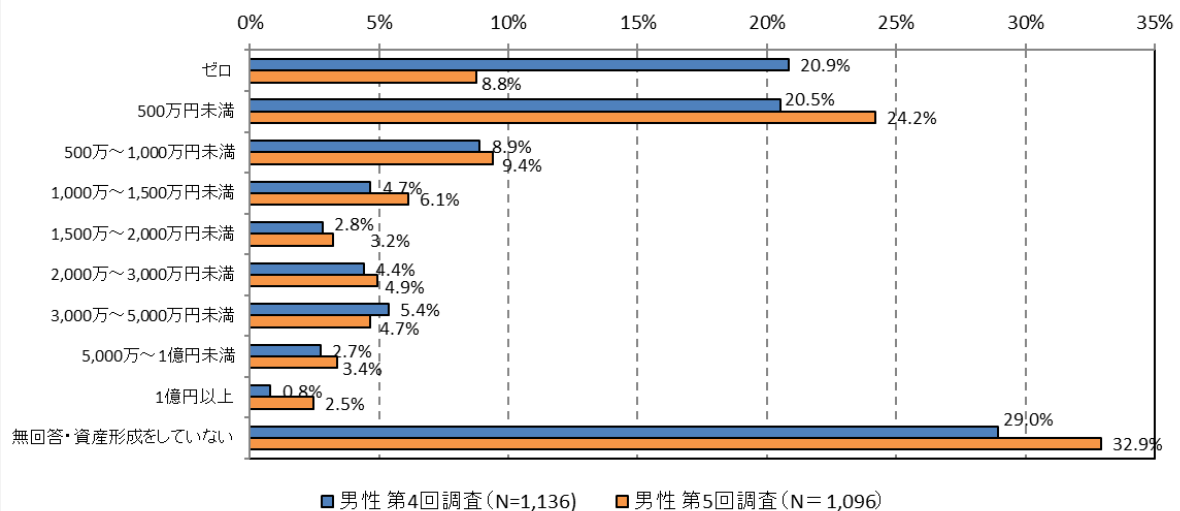
³ 第4回調査の「現在、老後の生活に備えて、現在ご利用されているものはどれですか。（○はいくつでも）」という設問文に対し、第5回調査では「現在、資産形成のためにご利用されているものはどれですか。iDeCo、NISA、財形貯蓄などについても利用している商品の内容からお選びください（○はいくつでも）」という設問文に変更した。

4.8 現在保有している金融資産額

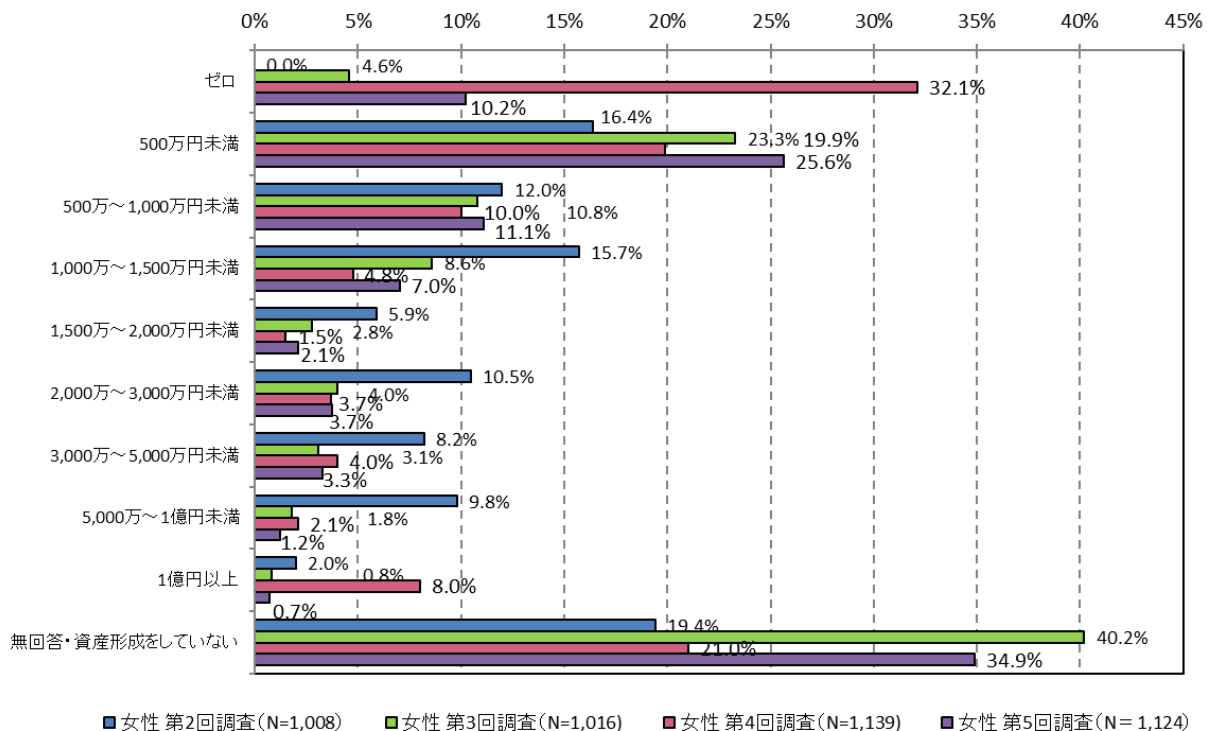
男女共に、第4回調査と比べて「ゼロ」と回答した割合は大幅に減少した。第5回調査において「ゼロ」と回答した割合は、男性8.8%、女性10.2%である。

資産形成をしている場合、男女共に「500万円未満」の回答割合が最も高い。男性サンプルでは、第4回調査と比較して3.7ポイント上昇した。女性サンプルでは、第4回調査で「500万円未満」の回答割合が減少したものの、第2回調査からほぼ増加傾向にある。

図表 29 現在保有している金融資産額（男性）



図表 30 現在保有している金融資産額（女性）

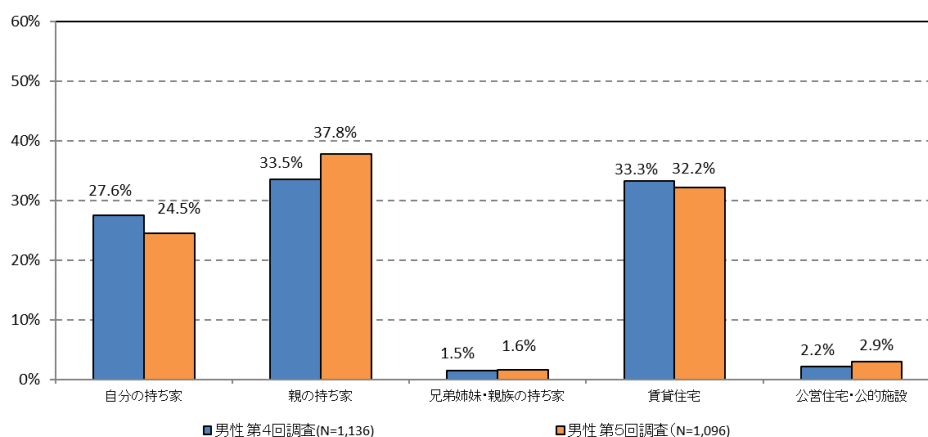


5. 住まいについて

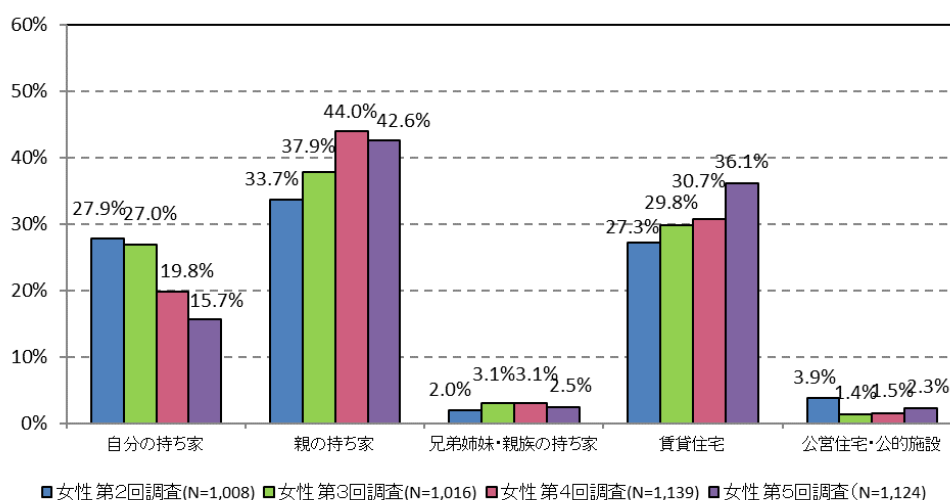
5.1 現在の住まい

現在の住まいについて過去調査と比較すると、まず、男性の場合、第4回調査と比較して、第5回調査では「親の持ち家」に住む割合が4.3ポイント高くなった。女性サンプルでは第2回調査から第5回調査を通して、「親の持ち家」、「賃貸住宅」、「自分の持ち家」の順に回答割合が高い。「自分の持ち家」は第2回調査から減少傾向にある一方、「親の持ち家」、「賃貸住宅」の回答割合は上昇傾向にある。

図表 31 現在の住まい（男性）



図表 32 現在の住まい（女性）

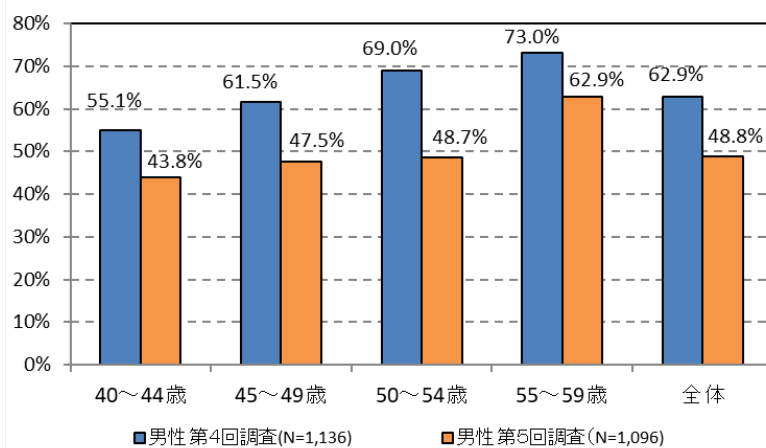


5.2 老後の住まい

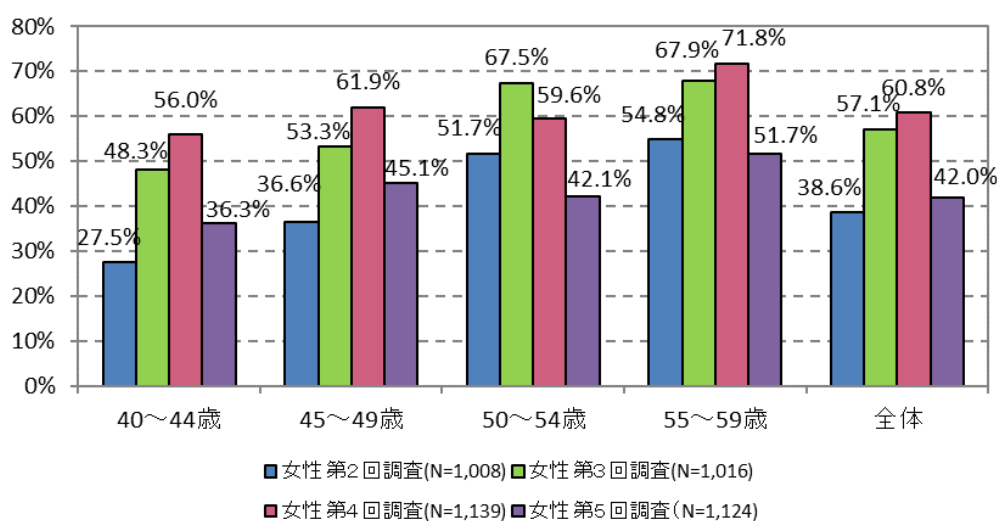
図表 33、34 では、「老後も現在の住まいに住み続ける」という回答割合の推移を年齢階層別に示した。第4回調査以前の結果と比較すると第5回調査では「老後も現在の住まいに住み続ける」の割合は減少傾向にある。男性サンプルではすべての年齢階層で10ポイント以上、低下している。女性サンプルではすべての年齢階級で15ポイント以上、低下している。

ただし、第5回調査では設問の選択肢に、第4回調査までには無かった「わからない」という選択肢を追加した。「わからない」という選択肢が存在しなければ「老後も現在の住まいに住み続ける」を選択していた人々が、今回調査から新たに追加された選択肢である「わからない」を選択した結果、第5回調査では「老後も現在の住まいに住み続ける」の割合が大幅に低下した可能性がある。したがって、結果の解釈には注意を要する。

図表 33 老後も現在の住まいに住み続ける割合（男性）



図表 34 老後も現在の住まいに住み続ける割合（女性）



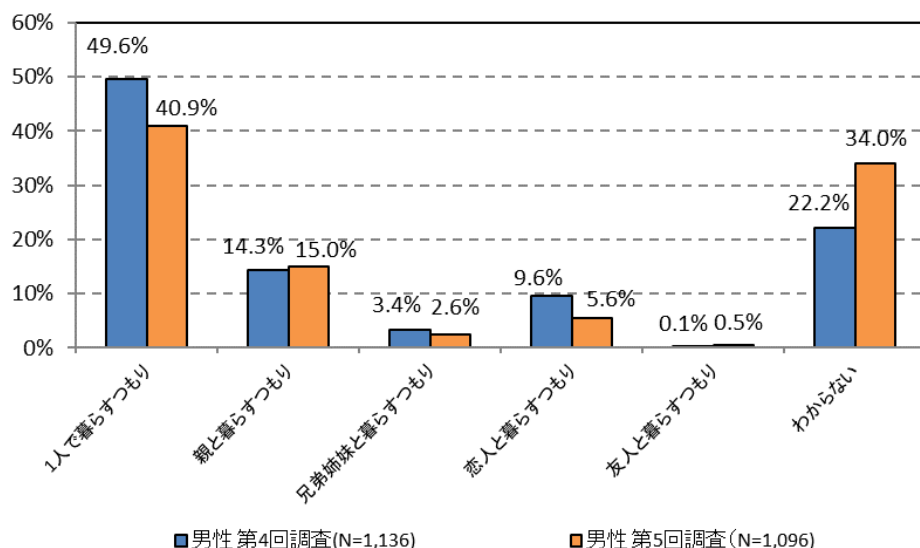
5.3 老後の同居意向

老後に誰と暮らすかについて、男性サンプルでは第4回調査と同様に、第5回調査でも「1人で暮らすつもり」と回答した割合が最も高い。ただし、その割合は第4回調査と比べて8.7ポイント低下した。

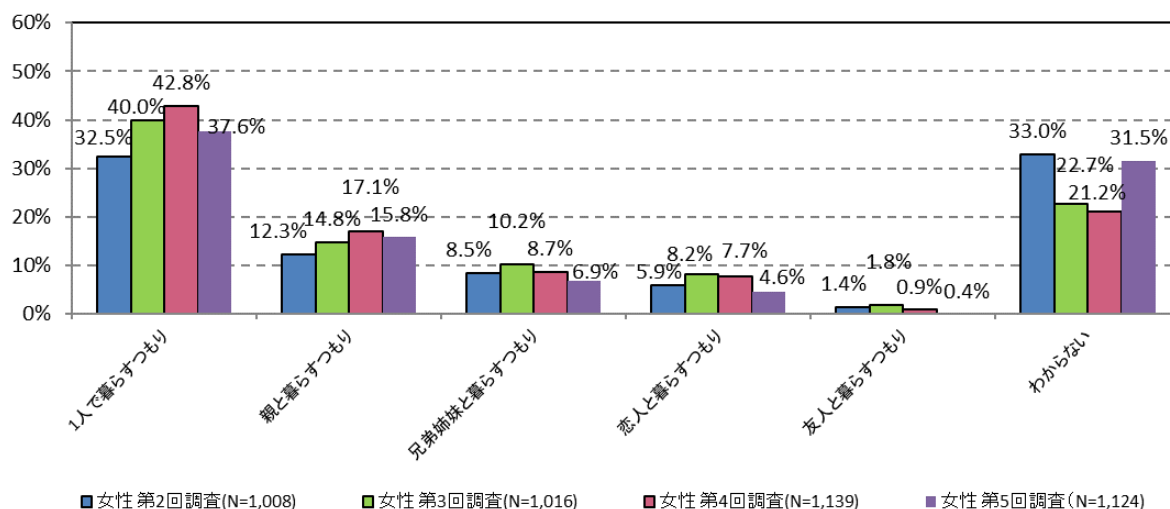
女性サンプルでは、「1人で暮らすつもり」の回答割合は第2回調査から第4回調査まで増加傾向にあったが、第5回調査では減少している。第4回調査と比べて、第5回調査では「1人で暮らすつもり」の割合が5.2ポイント減少した。一方、「わからない」という回

答が占める割合は、男女ともに第4回調査と比較して増加している。男女どちらにおいても、第4回調査から第5回調査にかけて、「わからない」の回答割合が10ポイント以上、増加した。

図表 35 老後の同居意向（男性）



図表 36 老後の同居意向（女性）



6. 今の生活について

6.1 現在の生活の満足度

現在の生活全般と各側面に対する満足度を過去調査と比較したのが、図表 37、38 である。男性は、「恋人」以外の項目の満足度（図表中の「満足」①と「不満」②の差）が、第4回調査から改善している。特に、「仕事の内容」、「収入」、「貯蓄・資産」の改善が大きい。女性は、いずれの調査回においても「家族」や「職場の人間関係」の満足度が高い。「収入」や「資産・貯蓄」の満足度は負であるものの、第2回調査から改善が続いている。

図表 37 生活の満足度（男性）

	「満足」① (非常に満足+まあ満足)		「不満」② (非常に不満+やや不満)		「満足度」①－②	
	第4回	第5回	第4回	第5回	第4回	第5回
生活全般	47.7%	53.6%	52.3%	46.4%	-4.6%	7.1%
仕事の内容	48.9%	58.1%	51.1%	41.9%	-2.1%	16.2%
職場の人間関係	60.6%	62.7%	39.4%	37.3%	21.1%	25.4%
収入	28.7%	37.9%	71.3%	62.1%	-42.6%	-24.2%
資産・貯蓄	29.1%	38.7%	70.9%	61.3%	-41.8%	-22.7%
趣味やスポーツ活動	60.6%	63.9%	39.4%	36.1%	21.2%	27.8%
家族	67.7%	68.1%	32.3%	31.9%	35.5%	36.3%
友人	38.4%	42.5%	61.6%	57.5%	-23.2%	-15.1%
恋人	65.0%	64.3%	35.0%	35.7%	30.0%	28.5%
地域・近隣の人	58.9%	62.1%	41.1%	37.9%	17.8%	24.3%

(注)「あてはまらない」を除いて集計。

図表 38 生活の満足度（女性）

	「満足」① (非常に満足+まあ満足)				「不満」② (非常に不満+やや不満)				「満足度」①－②			
	第2回	第3回	第4回	第5回	第2回	第3回	第4回	第5回	第2回	第3回	第4回	第5回
生活全般	67.7%	55.7%	56.5%	58.6%	30.2%	44.3%	43.5%	41.4%	37.5%	11.5%	13.0%	17.2%
仕事の内容	69.8%	54.7%	55.0%	59.2%	30.3%	45.3%	45.0%	40.8%	39.5%	9.4%	10.0%	18.4%
職場の人間関係	70.2%	64.6%	62.7%	65.2%	29.7%	35.4%	37.3%	34.8%	40.5%	29.2%	25.4%	30.4%
収入	34.1%	27.0%	33.9%	36.8%	65.8%	73.0%	66.1%	63.2%	-31.7%	-46.0%	-32.2%	-26.3%
資産・貯蓄	29.7%	24.9%	30.0%	36.8%	70.3%	75.1%	70.0%	63.2%	-40.6%	-50.2%	-40.0%	-26.5%
趣味やスポーツ活動	68.2%	69.9%	64.1%	64.5%	31.9%	30.1%	35.9%	35.5%	36.3%	39.8%	28.2%	28.9%
家族	85.9%	79.4%	73.3%	72.6%	14.2%	20.6%	26.7%	27.4%	71.7%	58.7%	46.6%	45.3%
友人	91.6%	60.7%	79.8%	56.8%	8.4%	39.3%	20.2%	43.2%	83.2%	21.5%	59.6%	13.5%
恋人	73.3%	87.3%	50.5%	78.2%	26.7%	12.7%	49.5%	21.8%	46.6%	74.5%	1.0%	56.4%
地域・近隣の人	73.1%	72.4%	68.1%	67.3%	27.0%	27.6%	31.9%	32.7%	46.1%	44.9%	36.2%	34.6%

(注)「あてはまらない」を除いてを集計。

6.2 今後の結婚意向

今後の結婚意向を年齢別に過去調査と比較したのが、図表 39、40 である。男女共に年齢が高くなるにつれて、「結婚するつもりはない」の割合が高まる。その傾向は女性に強く、第 5 回調査において男性サンプルでは「結婚するつもりはない」と回答した者は 55～59 歳で 66%、60～64 歳で 67%に対し、女性サンプルでは 55～59 歳で 71%、60～64 歳で 88%である。

図表 39 今後の結婚意向（男性）

	第4回調査(N=1,136)			第5回調査(N=1,250)		
	すでに結婚相手が決まっている	適当な相手がいたら結婚したい	結婚するつもりはない	すでに結婚相手が決まっている	適当な相手がいたら結婚したい	結婚するつもりはない
40～44歳	4%	61%	35%	3%	52%	45%
45～49歳	2%	52%	46%	1%	49%	50%
50～54歳	3%	45%	52%	0%	41%	59%
55～59歳	1%	42%	57%	0%	34%	66%
60～64歳				0%	33%	67%
60歳未満全体	3%	52%	45%	1%	46%	53%
40～64歳全体				1%	44%	55%

図表 40 今後の結婚意向（女性）

	第2回調査(N=1,008)			第3回調査(N=1,016)			第4回調査(N=1,139)			第5回調査(N=1,250)		
	すでに結婚相手が決まっている	適当な相手がいたら結婚したい	結婚するつもりはない	すでに結婚相手が決まっている	適当な相手がいたら結婚したい	結婚するつもりはない	すでに結婚相手が決まっている	適当な相手がいたら結婚したい	結婚するつもりはない	すでに結婚相手が決まっている	適当な相手がいたら結婚したい	結婚するつもりはない
40～44歳	6%	68%	26%	7%	62%	31%	5%	55%	40%	3%	46%	51%
45～49歳	6%	50%	43%	4%	60%	36%	4%	40%	55%	4%	40%	56%
50～54歳	3%	33%	63%	2%	37%	61%	3%	37%	60%	3%	27%	70%
55～59歳	1%	17%	80%	2%	23%	75%	2%	19%	79%	0%	29%	71%
60～64歳										0%	12%	88%
60歳未満全体	5%	49%	46%	4%	49%	47%	4%	42%	54%	3%	38%	59%
40～64歳全体										2%	36%	62%

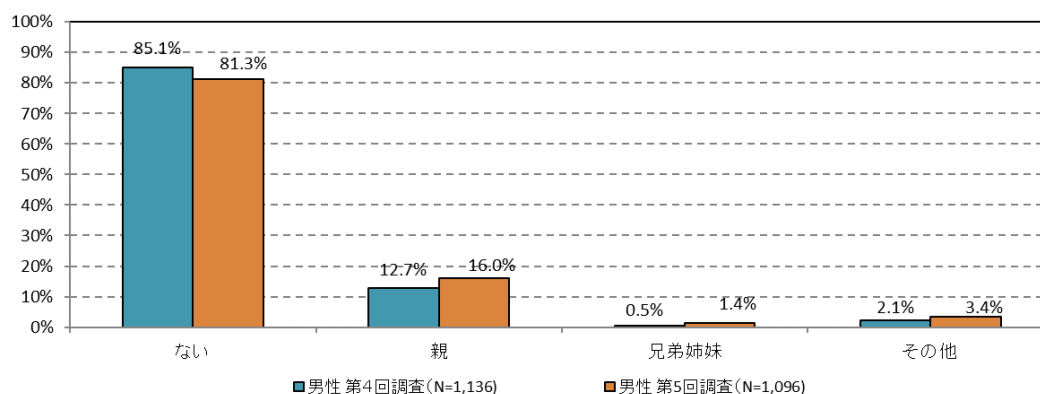
注) 第 2 回調査は回答不明が含まれるため、合計が必ずしも 100%にならない。

6.3 過去の介護経験

男女共に、第4回調査から介護経験がない回答者の割合が低下した。第4回調査と比べて、男性は3.8ポイント、女性は3.4ポイントの低下である。

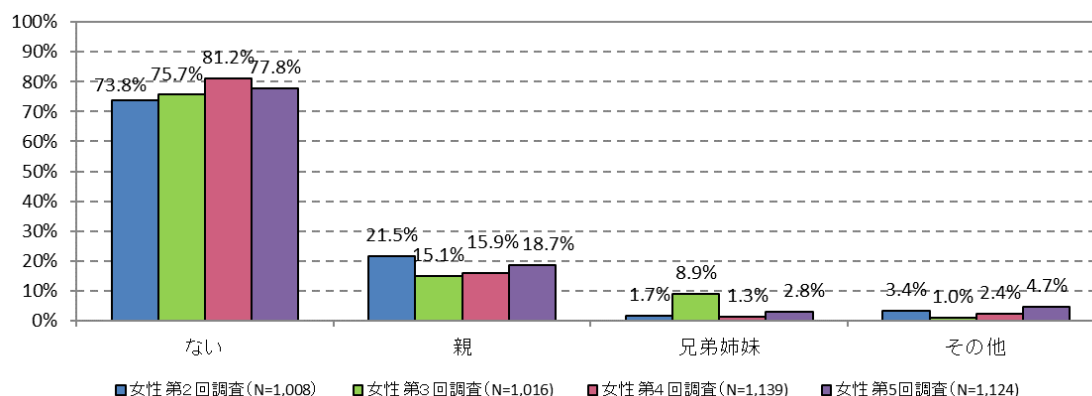
介護経験がある場合、いずれの調査回においても「親」の割合が最も高い。男性サンプルでは第4回調査と比べ、親を介護していると回答した割合が3.3ポイント上昇した。女性サンプルでは、親を介護していると回答した割合は第3回調査から増加傾向にある。

図表 41 過去の介護経験（男性）



注) 現在、介護しているケースも含む。

図表 42 過去の介護経験（女性）



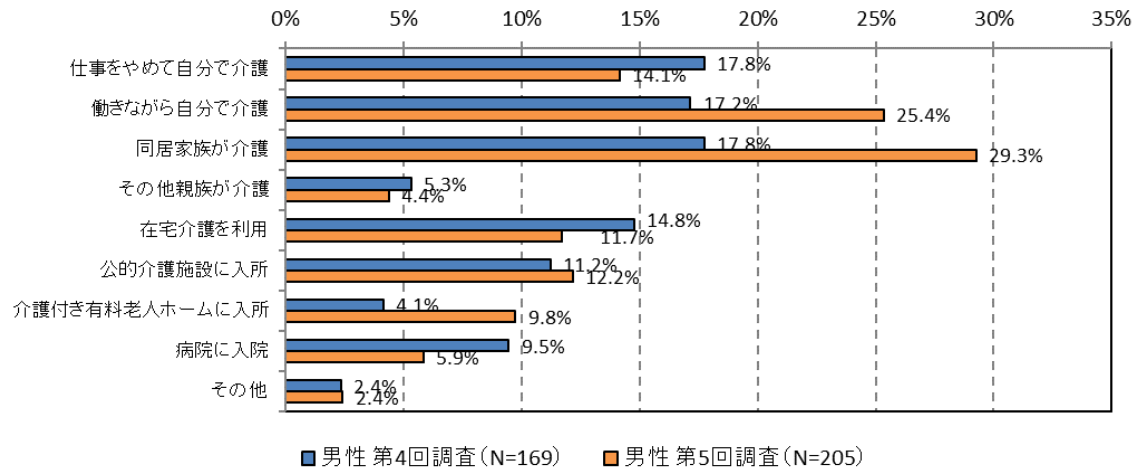
注) 現在、介護しているケースも含む。

6.4 （介護経験がある人のみ）実際の主な対処方法

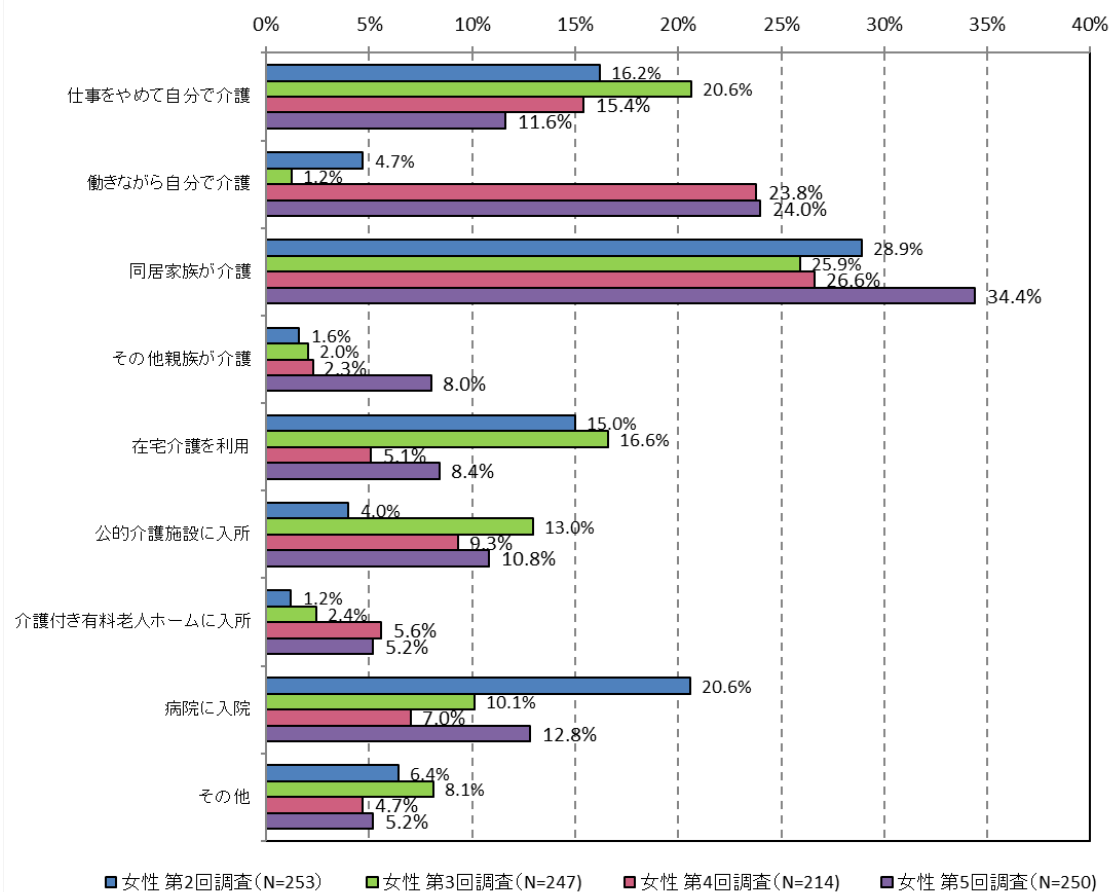
介護経験がある回答者が実際にどのような対処方法をとったか、について示したのが、図表 43、44 である。男女共に、第4回調査と比較すると、「仕事をやめて自分で介護」の割合は4.6ポイント減少した一方、「同居家族が介護」の割合が上昇した。男性サンプルでは、「会社の介護休業制度などを利用し自分で介護」が5.2ポイント上昇した。自分で介護する男性が、前回調査より多い。

第4回調査では介護対象者を問わず主な対処方法を尋ねている。一方、今回調査では介護対象者に対応した主な対処方法を尋ねているため、両者の比較には注意が必要である。

図表 43 介護経験がある場合、実際の主な対処方法（男性）



図表 44 介護経験がある場合、実際の主な対処方法（女性）



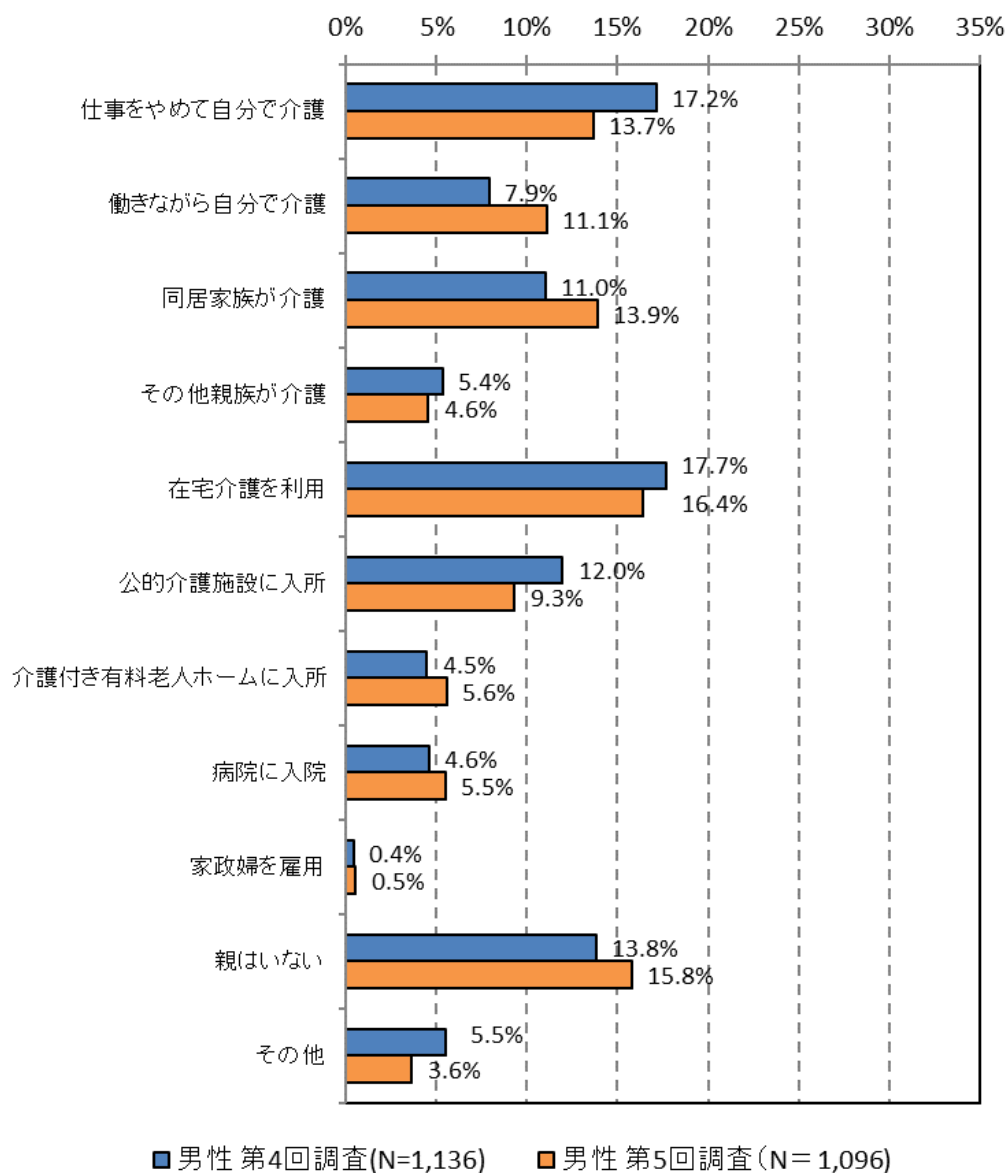
注)「在宅介護を利用」には、ホームヘルプサービス、訪問介護などの利用が含まれる。

6.5 将来、親の介護が必要になったときの対処方法

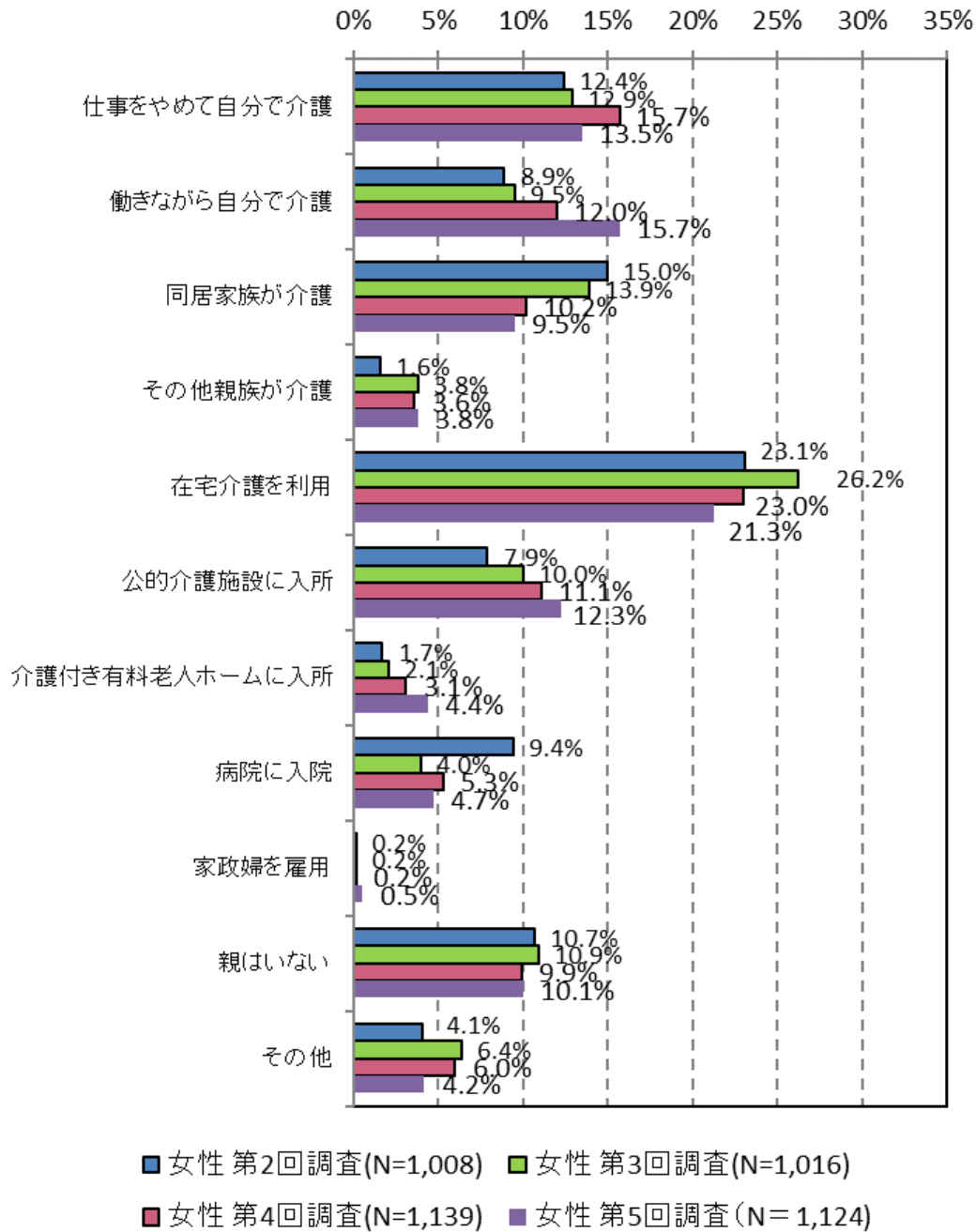
男性サンプルについては、第4回調査から大きな変化はない。しかし、「仕事をやめて自分で介護」が減少する一方、「働きながら自分で介護」が増加している。

女性サンプルでは、第2回調査から「在宅介護を利用」は減少傾向にある。一方、「働きながら自分で介護」、「公的介護施設に入所」、「介護付き有料老人ホームに入所」は、第2回調査から一貫して増加している。

図表 45 将来、親の介護が必要になった時の対処方法（男性）



図表 46 将来、親の介護が必要になった時の対処方法（女性）



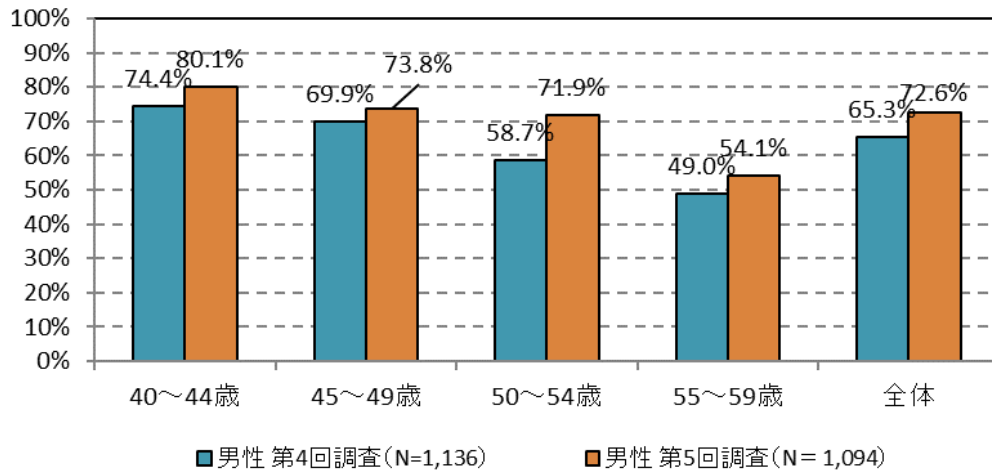
注)「働きながら自分で介護」とは、「会社の介護休業制度などを利用し自分で介護」を指す。
また、「在宅介護を利用」の在宅介護には、ホームヘルプサービス、訪問看護などを含む。

7. 老後の生活について

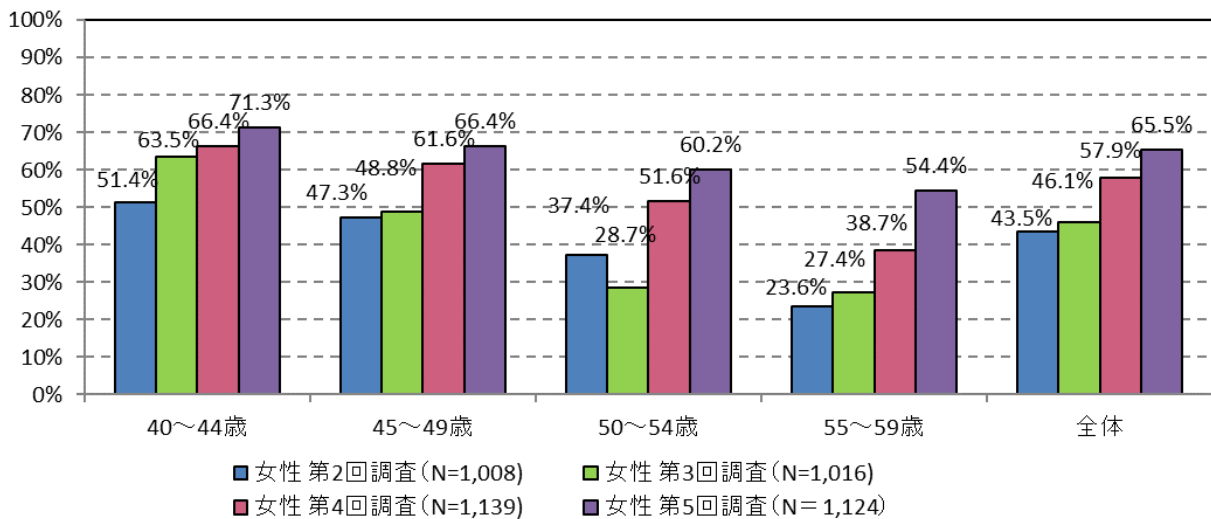
7.1 老後の生活設計について

男女ともにすべての年齢階級で、65歳以降の生活設計を「まだ考えていない」と回答した人の割合が増加傾向にある。特に50～54歳の男性と55～59歳の女性で、その傾向が強い。50～54歳の男性の中で「まだ考えていない」と回答した割合は、第4回調査と比較して13.2ポイント増加した。また、55～59歳の女性では15.7ポイント増加した。

図表 47 老後の生活設計をまだ考えていない人の割合（男性）



図表 48 老後の生活設計をまだ考えていない人の割合（女性）



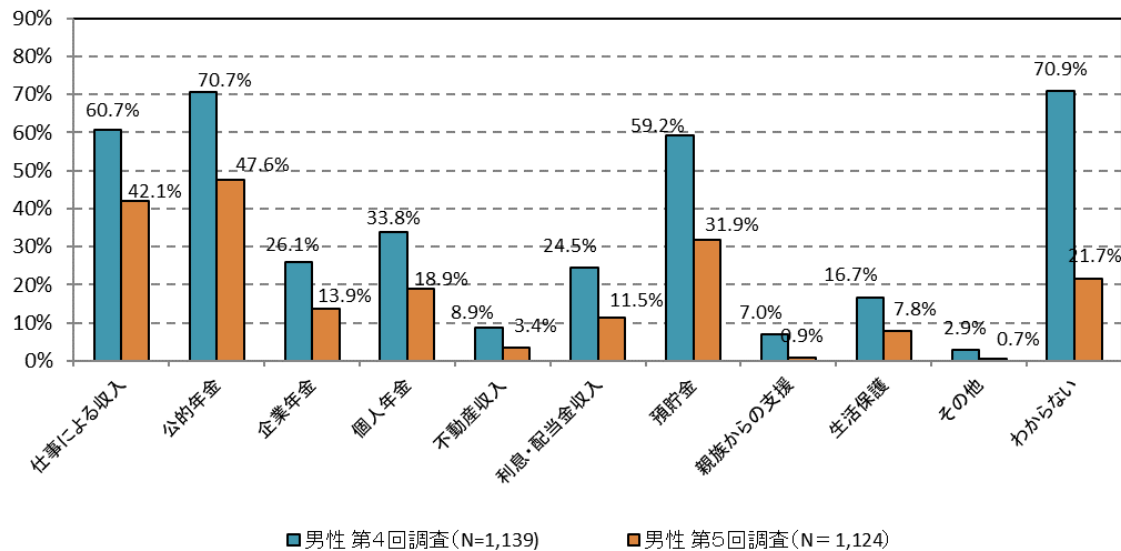
7.2 老後の収入源

男女共に、第5回調査で老後の収入源として「公的年金」と回答した割合は、過去調査と比較して大幅に低下した。男性サンプルでは、第4回調査と比較して20.1ポイントの減少である。女性サンプルでは、第2回調査から第4回調査を通して約70%だったが、第5回調査では52.9%まで減少した。

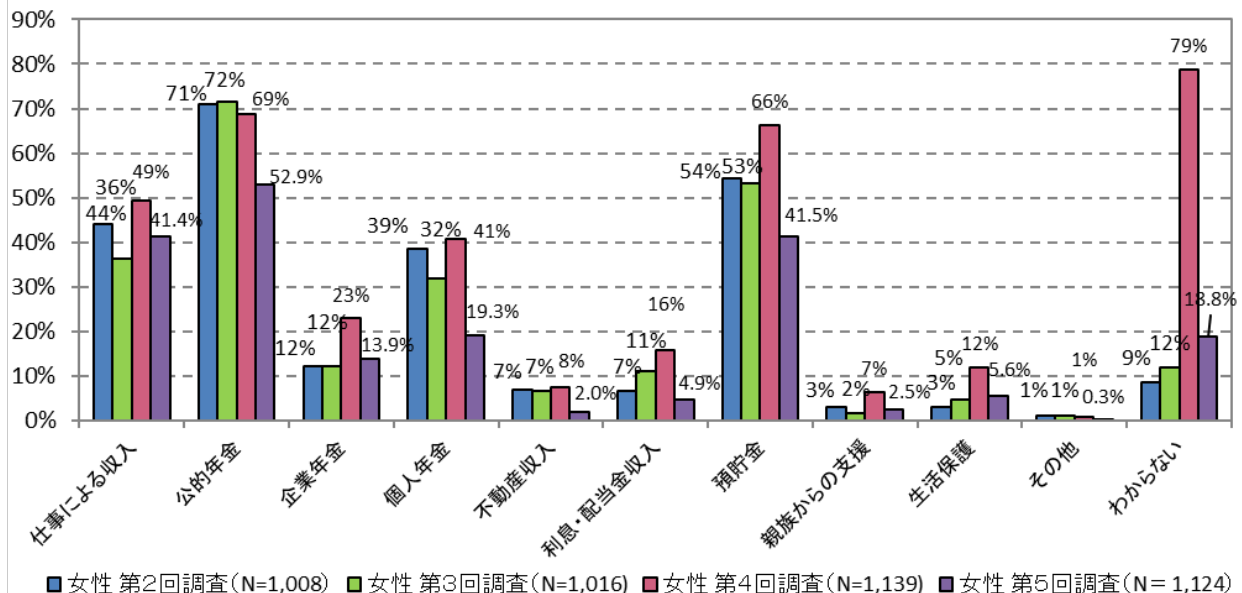
「わからない」の回答割合は、第4回調査で男女とも70～80%の高さであったが、第5回調査では男性21.7%、女性18.8%まで低下した。

第4回調査で「わからない」が突出して高いのは、各調査における回答方法の違いが影響していると思われる。第2回調査、第3回調査では「いくつでも」あてはまるものがあれば選択できたが、第4回調査では「優先順位の高いものから順に5つ」、第5回調査では「優先順位の高いものから5つまで」選択する。したがって、結果の比較には注意を要する。

図表 49 老後の収入源（男性）



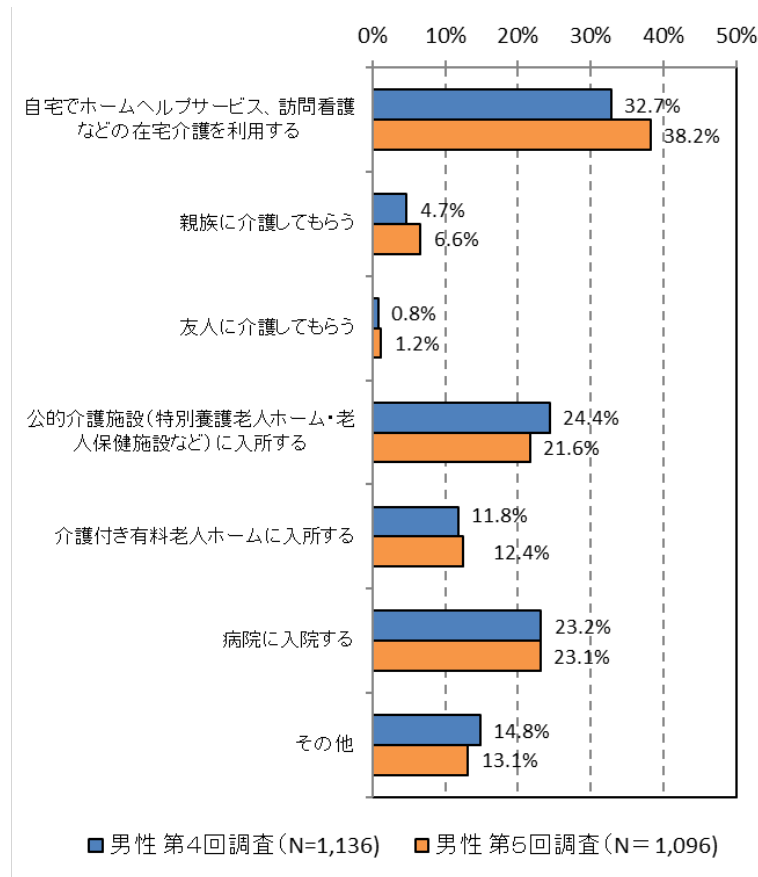
図表 50 老後の収入源（女性）



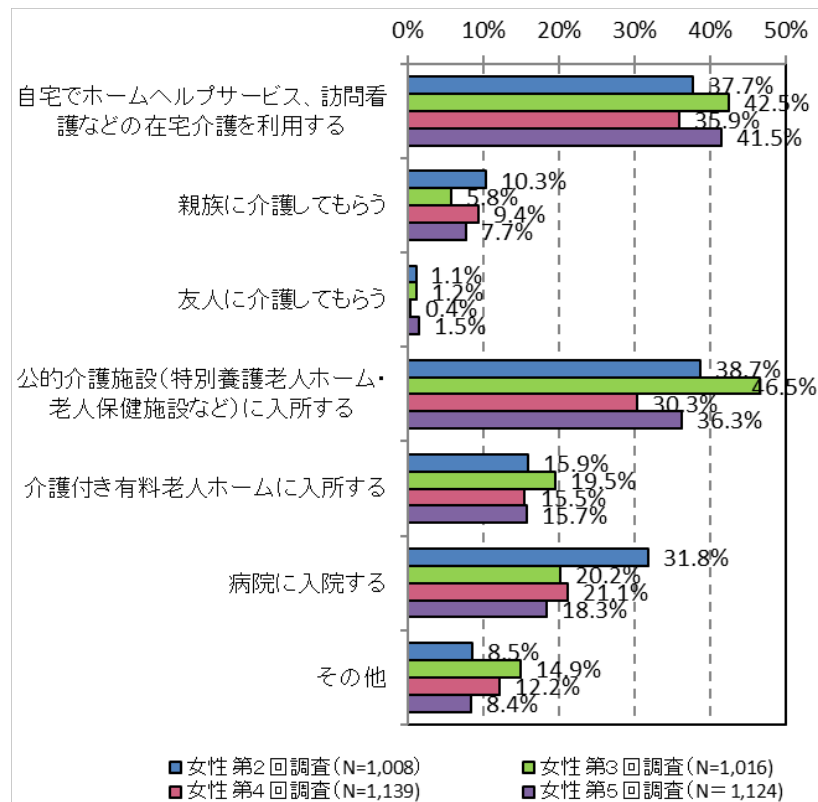
7.3 将来、自分の介護が必要になったときの対処方法

将来、自分の介護が必要になった時の対処方法について、男性は「自宅で在宅介護を利用」が第4回調査から第5回調査にかけて5.5ポイント増加した。女性の場合、「自宅で在宅介護を利用」の割合は第4回調査で一時的に低下し、第5回調査では第2回調査、第3回調査の水準に戻った。「公的介護施設に入所する」、「病院に入所する」の女性回答者の割合は、過去調査から減少傾向にある。

図表 51 将来、自分の介護が必要になった時の対処方法（男性）



図表 52 将来、自分の介護が必要になった時の対処法（女性）



注)「在宅介護を利用」の在宅介護には、ホームヘルプサービス、訪問看護などを含む。行程介護施設には、特別養護老人ホーム・老人保健施設などを含む。

参考文献

財団法人シニアプラン開発機構（2006）『第2回 独身女性（40～50代）を中心とした女性の老後生活設計ニーズに関する調査』

財団法人年金シニアプラン総合研究機構（2011）『第3回 独身女性（40～50代）を中心とした女性の老後設計ニーズに関する調査』

長野誠治（2015）「第4回 独身者（40～50代）の老後生活設計ニーズに関する調査：調査結果の概要（男女比較および年齢階層別比較）」公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構、『Web Journal 年金研究』、Vol.3、pp.130-187